

始



清水市の産業 清水市役所編
昭和十年版

14.2
328

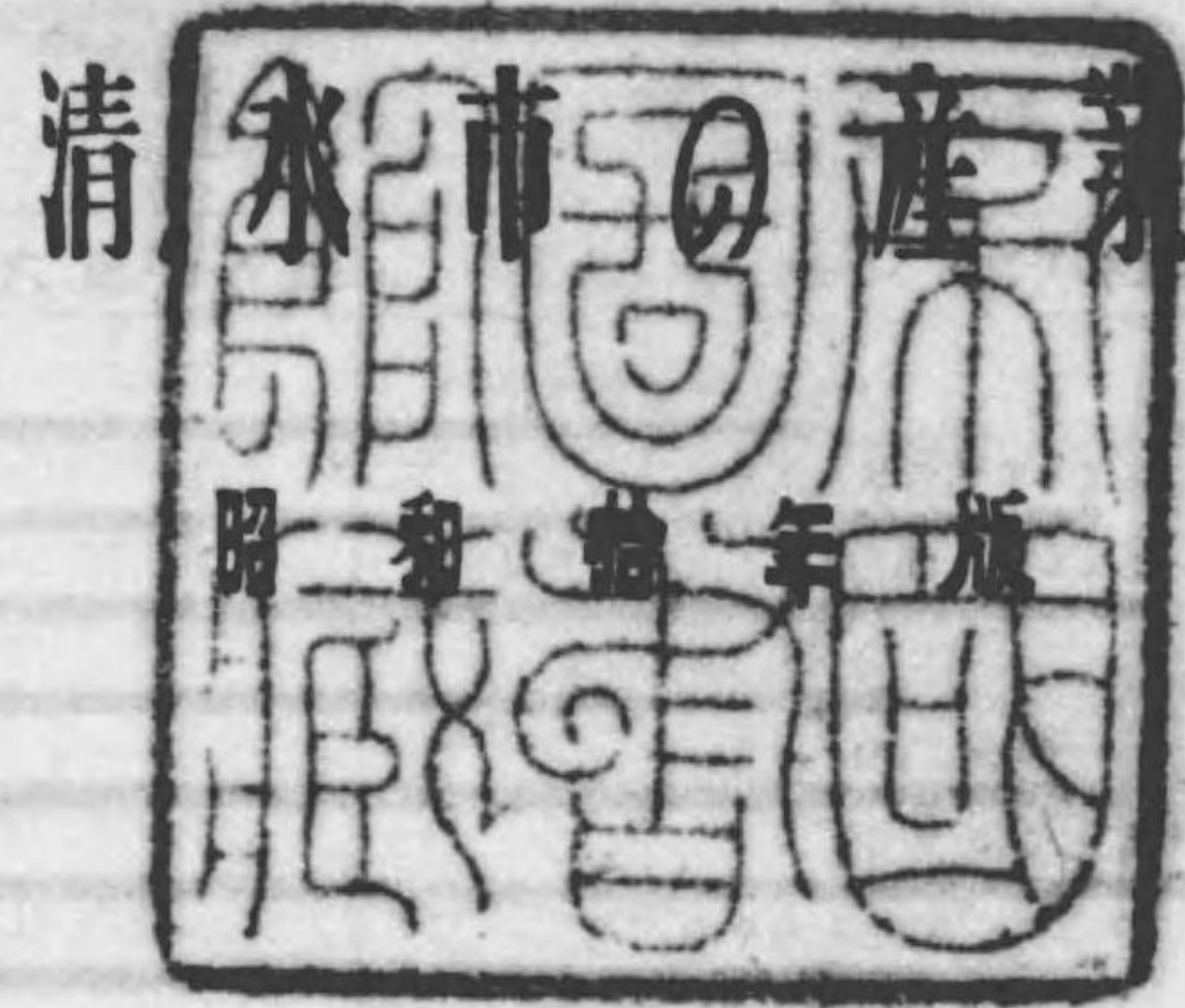
昭和拾年版

清水市の産業



清水市役所

日本平ヨリ清水市ヲ望ム



清水市役所





青島市公所



第 1 表

生產物總價額

(大正 13 年 (市制施行) 以降)

大正		19,443,840 円	
13			
14		25,482,743	
15			26,159,123
昭和		21,564,376	
2			24,071,404
3			27,712,969
4		22,472,705	
5			20,708,986
6		23,942,438	
7			29,252,734
8		27,685,474	
9			
	100 万円	1000 万円	2000 万円
			3000 万円

昭 和 9 年



第2表

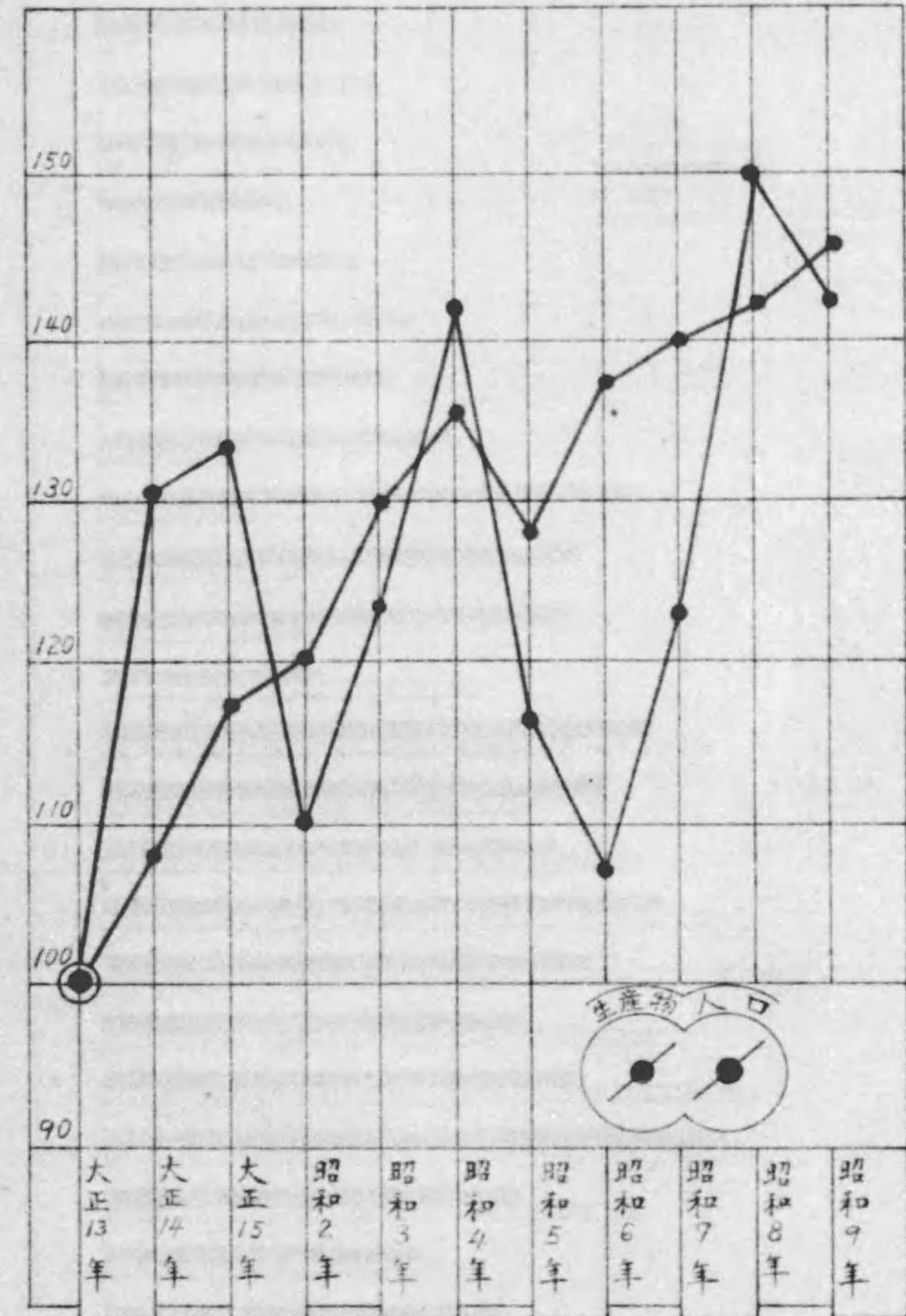
主要產物價額

昭和9年

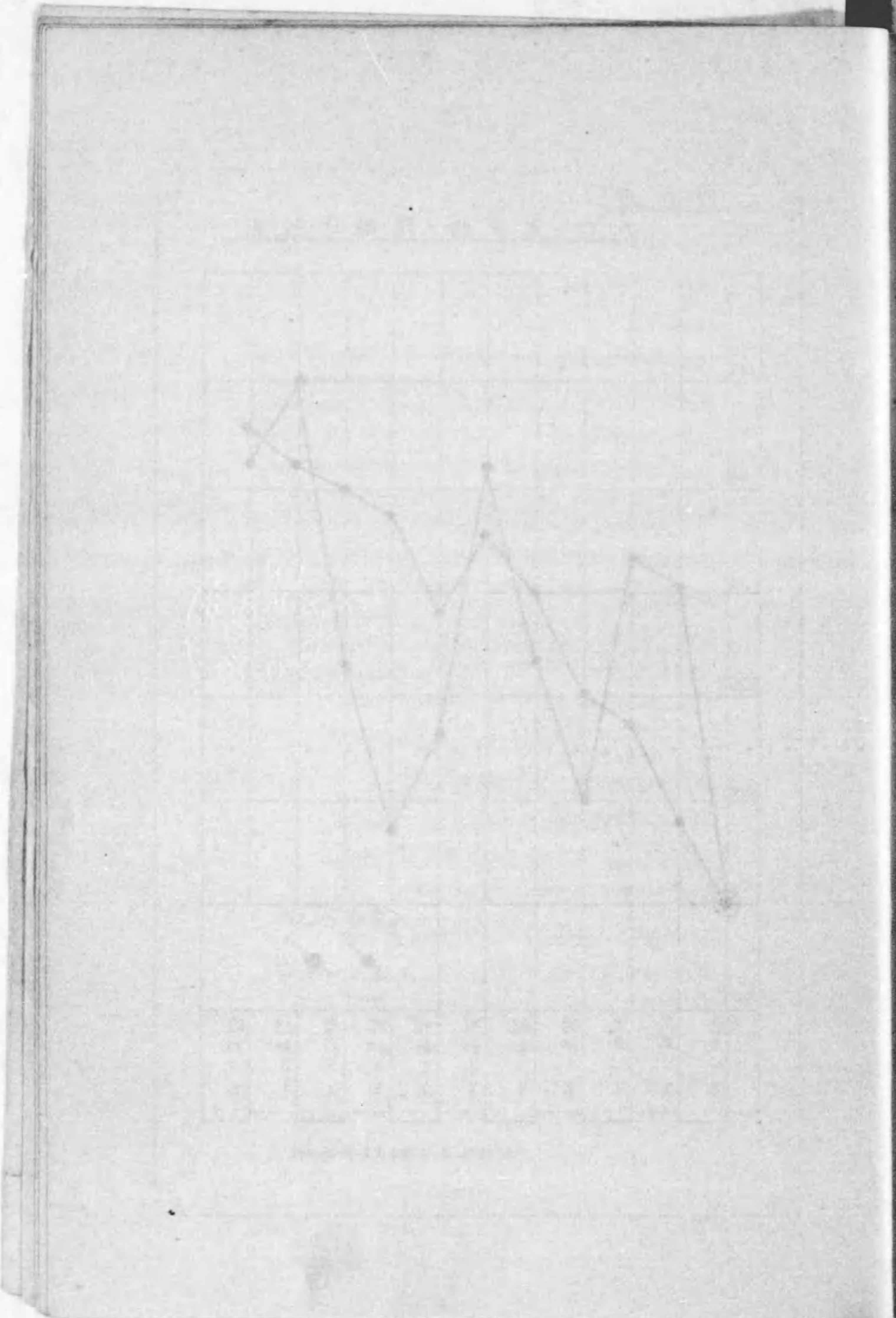
品名	價額	1万円	50万円	100万円	150万円	200万円
大豆粕						6,747,375
大豆油						5,374,514
製材品						4,316,943
罐詰類						2,825,519
西洋紙						1,554,123
機械類						643,850
塗料						398,000
紙製品						333,372
再製塩						332,028
船舶製品						317,670
木製品						282,626
鯉節						275,000
麥芽						248,100
菓子						186,700
清酒						185,872
製氷						150,507
海苔						150,000
綿織物						103,646
醬油						102,600
蠶卵						100,310

第 3 表

人口と生産物、指数比較表



註 昭和二年、全國未嘗有金融恐慌。



第4表

清水港貿易額比較表 (明治42年以降)

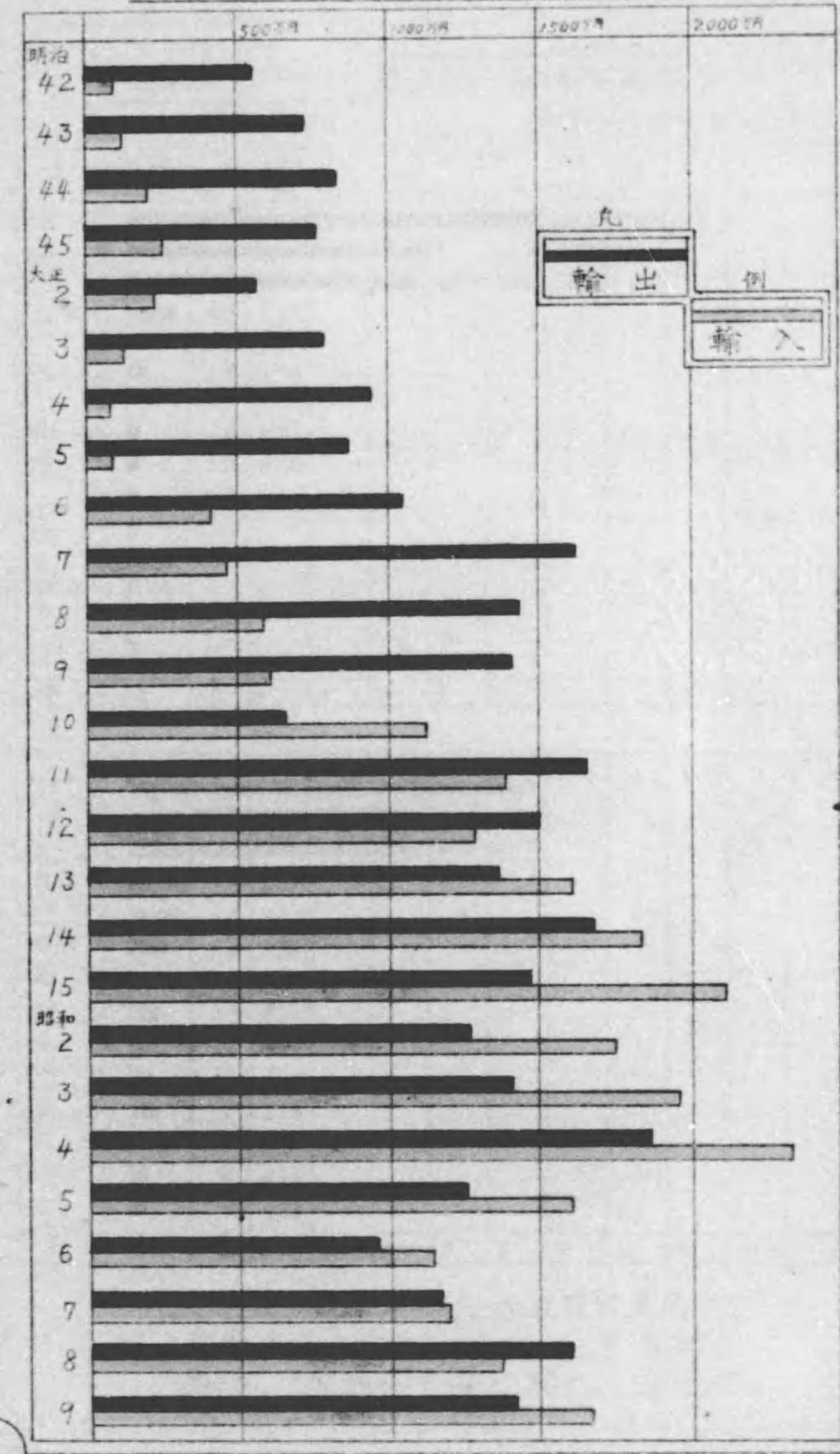


表 5

昭和8年於外清水港各港貿易額

昭和8年 千円以下四捨五入

港名	輸										出											
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
神戶	[Bar]										685	708	千円									
横濱	[Bar]										513	748										
大阪	[Bar]										494	159										
名古屋	89	552																				
門司	53	268																				
若松	22	293																				
小樽	21	292																				
函館	18	291																				
清水	16	312																				
三池	7	290																				
長崎	5	744																				
春日	4	688																				
日市	4	023																				
下關	2	736																				
博多	2	298																				
單位	0	1億円	2	3	4	5	6	7	8	9	10											
港名	輸										入											
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
神戶	[Bar]										673	161	千円									
横濱	[Bar]										469	214										
大阪	[Bar]										469	067										
名古屋	91	210																				
門司	64	923																				
若松	46	494																				
小樽	37	780																				
函館	25	981																				
清水	16	841																				
三池	13	935																				
長崎	12	714																				
春日	11	831																				
日市	9	055																				
下關	7	465																				
博多	7	465																				
單位	0	1億円	2	3	4	5	6	7	8	9	10											

本邦港湾数 2956 内外國貿易港 41
 昭和8年於外清水港貿易額ハ
 輸出…全國第9位 輸入…第10位

第 6 表

清水港主要貨物輸移出入狀況

(昭和 7 年)

輸出	500円	1000円
綠茶		
鎌詰		
大豆油		
蜜柑		
總額	14,065,455 円	

輸入	500円	1000円
大豆		
豆粕		
石炭		
飼料		
木材		
アスファルト		
總額	16,854,407 円	

移出	500円	1000円
製品		
蜜柑		
總額	3,725,284 円	

移入	500円	1000円
木材		
米		
石炭		
鮮魚		
食塩		
セメント		
總額	27,546,031 円	

14.2_b-728

凡 例

- 本書は昭和九年の調査に係る本市産業統計及其他の資料を基礎として之に既往3ヶ年分の統計を列記して、本市産業全般の動靜を示したるものである
- 本書を分ちて總説、農業、畜産業、林産業、水産業、工業、商業、運輸、交通附録、の九部となし各部の冒頭には夫々概説を附した
尙、清水港設備と當市第一期都市計畫事業とを中心とした地圖を添付した
- 本書中何年とあるは曆年にして、何年度とあるは會計年度である
- 本書統計に用ひた數量單位は不統一を免れず、近き將來に於て「メートル」法に統一したいものと思ふ
- 本書登載の計數を概ね一位に止め、以下の端數は四捨五入するを例としたが、一位未滿の端數を知る必要あるものは之を掲げ「,」を附した
又千位、百萬位には「.」を附すべきだが種々の都合上同じく「.」を附したが、讀者は容易にその區別を知るであらう
- 本書に付て種々誤謬、不満足の點があらうと思ふ、幸に讀者の叱正を待ち、逐年補筆訂正して完全を期したい
- 尙附録として清水市近郊案内記を編纂し、清見湯一帶の概況を初め、三保松原大俠次郎長の墓、龍華寺、鐵舟寺、日本平、久能山、興津等の遊覽案内を掲げた

清水市の産業

1 総 説

1 地勢及び人口	1
2 沿革	1
清水市の現状	1
都市計画の實施	2
上水道事業の概況	3
3 産業總説	4
職業別戸數	4
生産物總價額	5

2 農 業

1 概 説	5
2 農業戸數及人口調	5
3 耕地面積	6
4 米麥其他食用農産物	6
5 園藝農産物	6
6 果 實	8
7 茶 業	8
8 蠶 絲	
其 1	8
其 2	8

3 畜 産 業

1 概 説	9
2 畜産及總額	9
3 家 畜	10
4 家 禽	10
5 牛 乳	10

4 林 産 業

1 概 説	11
2 林産及び林野産物	11

5 水 産 業

1 概 説	11
2 水産漁獲物	12
3 水産製造物	12
4 水産養殖物	13

6 工 業

1 概 説	13
2 工場總覽	
其 1	14 15
其 2	16 23
3 工業製品	24 26

7 商 業

1 概 説	
清水市交易の沿革	26
清水港内外貿易	27
倉庫回漕	28
會社金融	29
2 清水港内外貿易	30 31
3 主要貨物輸出入状況	30 33
4 主要貨物移出入状況	32 34
5 清水港輸出入國別表	32 35
6 銀 行	34 35
7 貯 金	36 37
8 質 屋 貸 金	36 37
9 産 業 組 合	36 37
10 手 形 交 換 所	36 37
11 會 社 總 覽	
其 1	36 37
其 2	36 37
其 3	38 53

8 運輸交通 附電氣瓦斯

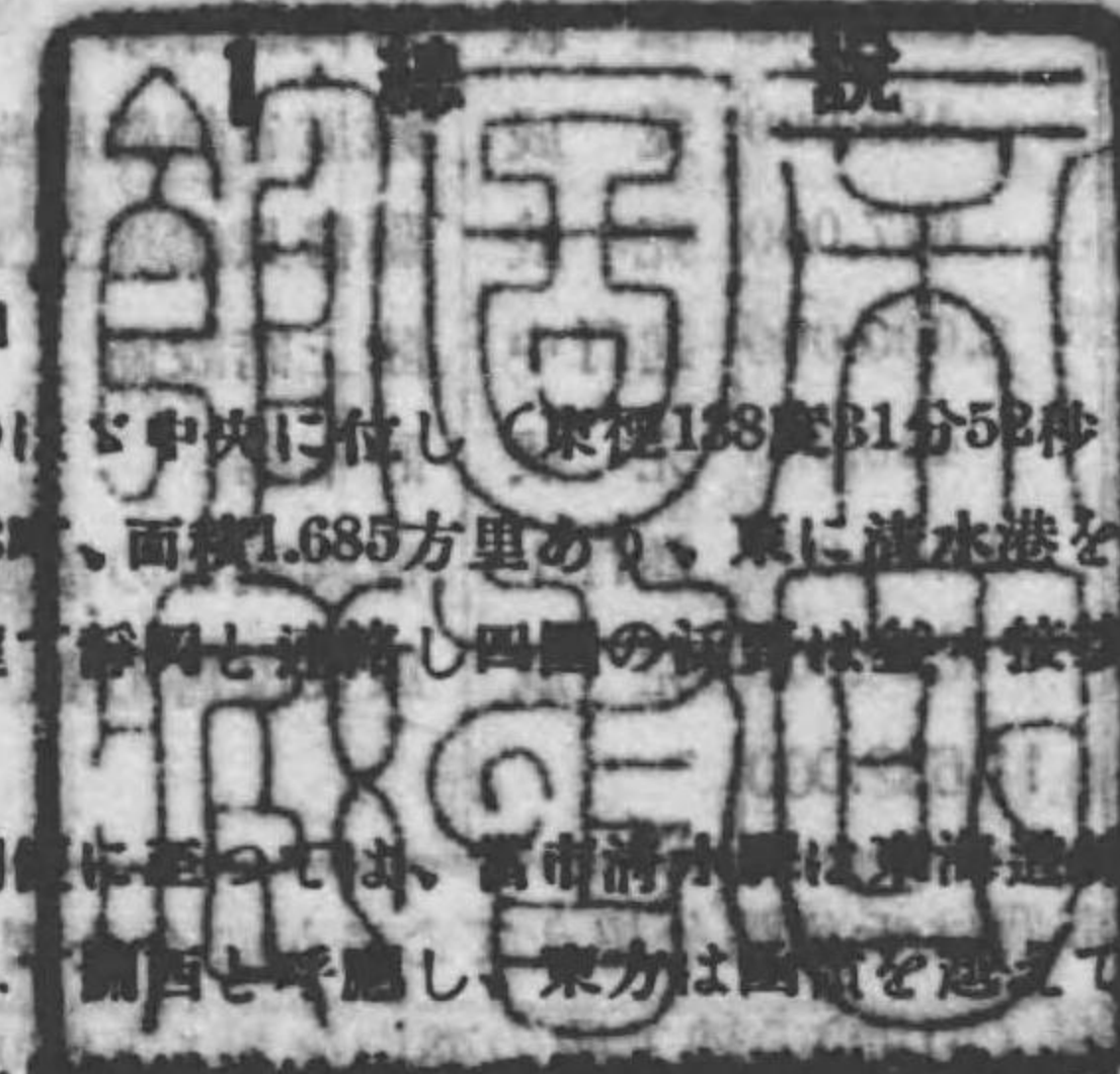
1 概 説		
	清水港	54
	鐵道	55
	電氣鐵道及乗合自動車	55
2 道 路		55
3 諸 車		55
4 汽 車		56 57
5 電 車		56 57
6 船 舶		56 57
7 外國貿易出入船舶		58 59
8 入港船舶噸數階級別		58 59
9 内 外 國 船 入 港		58 59
10 通 信		60 61
11 電 氣		60 61
	1 電 燈	60 61
	2 電 力	60 61
	3 瓦 斯	60 61

9 附 録

1 市 の 財 政	62 63
2 諸 税 負 担 總 額	62 63
3 職 業 紹 介 所 成 績	62 63
4 清 水 市 勸 業 諸 費	62 63
5 荷 水 港 收 入 比 較 表	64
6 度 量 衡	64
7 縣 下 四 市 市 勢 比 較 表	64
8 公 共 及 實 業 團 体	65

清水市近郊案内記	1 12
----------	------

清水市の産業



(1) 地勢及び人口

清水市は静岡縣のほぼ中央に位し、(東經138度31分52秒、北緯35度0分52秒) 東西1里6町、南北2里3町、面積1,685方里あり、東に清水港をもち駿河灣の西端を扼し、西に有度山を経て静岡と連絡し四國の交通は船・接續發展して隣村との境界辨じ難き程である

若し夫れ交通の利便に至つては、當市清水港は東海鐵道主要驛として6哩の西方には静岡驛を控へ、關西と響應し、東方は國道を越えて關東に至り、中間富士驛より分岐せる富士身延鐵道に於て、静岡清水間の各地と聯絡する

清水港は神戸、横濱兩港の中間に介在するを以て内外諸港との間に物資の集散頻繁を極め常に船舶輻輳し實に當市は海陸交通の要街と云はれてゐる

尙、當市の人口は下表の示す如く漸増の傾向を辿り、本年度に於ては6萬を超過するに至つた

年 度	世帯數	現 住 人 口			男 100 1 月 に 付 女 平 均	本 籍 人 口 動 態					
		男	女	計		婚 姻	離 婚	出 生	死 亡	死 産	
昭和9年	12,342	31,992	31,147	63,139	97.6	5.12	618	53	1,583	812	102
昭和8年	12,156	31,228	30,467	61,695	97.6	5.08	510	61	1,605	833	103
昭和7年	11,279	30,661	29,928	60,589	97.6	5.15	591	57	1,590	757	100

(2) 沿革

本市は大正13年2月11日、庵原郡江尻町、辻町、安倍郡清水町、入江町、不二見村、三保村の4ヶ町2ヶ村の合併により市制を施行されて今日に至つたものである

清水港の現状

清水港は三保岬の自然の防波堤に抱かれ市内を貫流する巴川は又天然の運河を成し、水陸交通の便あるを以て早くより船舶輻輳し、明治32年8月開港場に指定せられ越えて全40年10月内務省より第二種重要港灣に選定せられてより種々港灣設備改良に努める處があつた、即ち静岡縣は工費46萬5千余圓を以て、明治42年第一次修築工事を起工し、大正3年竣工を告げたるも、その後益々膨張發展に伴ひ次表の如く工事を繼續するに至つた

第2次清水港修築工事概況

工事期間	工費	進行	備考
自大正10年至昭和9年	5,500,000	繼續	静岡縣工事
全	485,000	完成	鐵道省經營岸壁工事
全	677,000	完成	縣營員輪埋立工事
自大正15年	2,000,000	進行中	陸上設備
自昭和2年	450,000	完成	貯木場
自昭和4年至9年	1,800,000	進行中	帝國議會の協賛を経たる擴張工事
自昭和6年至8年	620,000	完成	震災復舊工事
計	11,632,000		

即ち、清水港修築工事費は千萬圓を超えてゐるが、今全國の第一種重要港灣(8港)及第二種重要港灣(31港)の總工費の平均をとると880萬圓であるのに比し當港はそれより2百萬圓以上を費してゐる、これを以て見ても如何に政府が重大視してゐるか判るのだが、今神戸、横濱のそれを觀ると前者は3千萬圓、後者は5千5百萬圓を費してゐる

清水港は港内面積319萬坪を有し、港内の水深24尺以上を有する水面122萬坪あり、前掲工事竣成の暁には岸壁延長423間、2萬噸級2隻、8,000噸級1隻、3,000噸級2隻、又鐵道省専用岸壁146間には3,000噸級2隻を全時に接岸し得ることになる、又折戸灣内は約66,300坪の水面を水深24尺に浚渫し、繫船浮標4個を設備し各3,000噸級の汽船を投錨せしむることになる、これらの諸設備完成の暁には本港は我邦屈指の良港たることを得るであらう

尙昭和4年4月より清水市に清水港務所を置き、岸壁上屋其他の港灣設備の維持管理及施設其他の事項を取扱ひ同時に下記の繫船岸壁及上屋の供用を開始した

3千噸級岸壁延長124間(水深24尺)

上屋間口39間奥行14間、此坪數546坪のもの2棟、尙1棟696坪は日下工事中

昭和5年1月9日8千噸級繫船岸壁供用開始す

巴川岸より通計209間

昭和5年2月1日より東海道線清水港驛より清水埠頭驛に至る鐵道に於て貨取扱及び1車積特種貨物運輸營業を開始し尙昭和8年7月より一般小口發送貨物をも取扱つて居る、但し貨物の集貨はしないことになつてゐる

都市計畫の實施

清水市都市計畫第一期事業には清水驛と築港埠頭との二中心を聯絡する路線を基準として樹立せられた

第1期都市計畫街路工事(昭和3年—9年)

路線名	數	幅員	延長	事業費
(1) 大曲 波止場線	1	12.0	1,452	1,176,019
(2) 村松 折戸線	1	10.0	755	255,947
(3) 折戸 三保真崎線(一部)	1	8.0	1,758	244,480
(3) 折戸 三保真崎線(殘部)	1	6.0	545	52,401
(4) 折戸 蛇塚線	1	8.0	338	51,832
(5) 駒越 横砂線(一部)	1	8.0	542	297,135
(6) 大曲 大正橋線	1	8.0	441	236,635
(7) 上清水 船越線	1	6.0	725	93,144
(8) 龍華寺 平川地線(一部)	1	6.0	1,113	123,873
計	8	-	7,669	2,534,416

面積百分比表

時期	利用面積				其他	總面積
	道路	耕地	宅地	計		
現在	137,940	749,292	3,726,300	4,613,532	2,593,468	7,207,000
百分比	2%	10%	52%	64%	36%	

備考 都市計畫區域内の總面積(清水市、有慶村、高部村、飯田村、袖師村)は16,925,000坪、その内利用面積は9,965,000坪になる豫定

この工事竣工の暁には清水港は益々その機能を發揮し、折戸灣沿岸は工場地として更に開發され、又三保名勝一帯は益々遊覽客に便利を供するに至り、市内の股盛を誘致するは明かである

上水道事業概況

本市に於ては夙に市民の保健、衛生、産業振興、火災防禦及び港灣都市としての船舶給水等現代都市に於ける文化的施設として上水道の布設を企畫し、大正14年1月機關を設けて慎重調査を遂げ、水源を庵原郡を貫流する興津川の河水に求め、取水口を全川上流の両河内村宇清地に設けて、自然流下式に依り給水人口10萬人最大給水量1人1日平均5.5立方尺、給水區域は市内全体の計畫の下に昭和5年8月工を起し、昭和8年3月全工事(水源地、淨水場、伏流唧筒場及送水管並配水管理設工事等)の完成を告げて清冽玉の如き淨水を豊富に市内に送ることを得るに至つた而して給水事務は市民の期待に添ふべく特に布設工事完了前即ち昭和6年11月より給水申込受付を開始し直ちに給水引込工事を實施して、通水準備を進め、昭和7年4月より全市に給水を開始した、因に日下市内配水管理設總延長は74,176米、消火栓數は450で最近1ヶ月の總水量は275,781立方尺を示す、又船舶給水は全年7月より清水港岸壁に假事務所を設け寄港船舶に對して直接給水を開始し、又運搬給水は從來民間の業者三名に於て營まれて居つたが其の營業全部を市に買収し鋼製給水船並に曳船をも新造して昭和10年8月より之が給水を開始す、而して給水使用普及宣傳獎勵に付ては獎勵金交付規程を設けて獎勵金を交付し、或は工事

費補助割戻其他数回に亘り特典募集を爲し又使用者慰安會を催す等種々方法を講じた結果大体豫定の給水戸数を得るに至りたり現在の普及歩合は40%に達するに至つた

今昭和10年3月末の使用戸数及使用料を示せば次の通りである

給水の概況

種別	給水戸数	1ヶ月給水料金
定額給水	1,994	2,678
計量給水	724	2,896
共同給水	613	329
使用料前納金	—	97
計	3,331	6,001
船舶給水	—	425
合計	—	6,426

(3) 産業總説

本市の産業は、海運の至便と氣候の快適とにより逐年發達の傾向を辿り、市制施行當時(大正13年)の人口は4萬3千余人、生産總額は1.944萬圓にすぎなかつたところ、昭和9年に至つては2,700萬圓に騰つた

今大正13年の人口指數及び生産總額指數を100として既往11ヶ年の消長を記せば下記の如くである

	人口指數	生産總額指數
大正13年	100	100
全 14年	108	131
全 15年	117	134
昭和2年	120	110
全 3年	130	124
全 4年	136	143
全 5年	128	116
全 6年	137	107
全 7年	140	123
全 8年	143	150
全 9年	146	143

之によると昭和2年の全国的金融恐慌は別とし、本市が如何に堅實な發達を示しつゝあるか判る、昭和8年の全國100市の統計に依ると、本市は101番目に市制を施行されたに拘らず、人口順位は67番目、生産總額順位は38番目であつた

又近年事業の經營は個人より法人にうつり大正13年當市に本店を有する会社は僅に58であつたが昭和9年には101となりその投下資本額は8,870,460圓に達した

今産業各論にうつる前に職業別戸数、生産總價額の統計を示せば下表の如くである、各産業に就ては以下の各項に依つて参照されたい

職業別戸数(本業)

年次	農業	水産業	工業	礦業	商業	交通業	公務自由業	其ノ他有職者	家事使用人	無職	計
昭和9年	1,603	319	2,600	—	3,175	996	784	13,411	35	530	11,888
昭和8年	1,613	309	2,767	—	3,169	1,060	725	924	15	757	11,330
昭和7年	1,602	310	3,140	—	3,132	1,319	795	483	10	524	11,279

生産物總價額

年次	農業	水産	畜産	林産	工産	計	現住1戸當	現住1人當
昭和9年	928,012	1,370,045	190,057	2,872	25,189,488	27,685,474	2,240	437
昭和8年	964,352	1,324,466	186,143	2,905	26,774,868	29,252,734	2,406	474
昭和7年	946,350	1,069,494	186,723	3,458	21,736,413	23,942,438	2,034	395

2 農業

(1) 概説

如何なる都市と雖もその商工業の發展に伴ひ、耕地は次第に宅地、工場地に變じ、農業専業者は兼業に、兼業者は他業に轉じて、耕地面積の減少と共に農産物の漸減を來すを原則としてゐる、本市もその例にもれずこの傾向を辿るとは云へ市制施行は大正13年、4ヶ町2ヶ村の合併によるもので、面積は人口數に比して他都市より遙かに多く(濱松市より0.74里大 沼津市の約2倍)従つて耕地面積にも農業戸口にも急激なる變化を見なく、農業より他業に轉業するものは極めて僅少である、従つて生産物も價額に於ては増減あるも生産高は大差ない

これ等の理由は、本市は米麥其他の食用農産物よりむしろその温暖なる氣候を利用して、イチゴ、ミカン、ナシ、トマト、キュウリ等の果實蔬菜の栽培を奨励し又これらの生産の堅實は容易に轉業を免れてゐるからである

然し當市の人口増加率は極めて順調であり、大正13年市制施行當時の人口指數を100とすれば、それより11年後の昭和9年は146で、かゝる人口増加は勢ひ商工業を股盛ならしめて新事業の勃興と共に耕地面積の漸減を來すことは自明の理である

現在に於て本市農業を代表する物産は米、茶、柑橘、蔬菜等であつて蔬菜にあつてはトマト、キュウリ、枝豆等の促成早熟品及石垣苺を主とするものであつて、耕地の縮少は總の蔬菜園藝の急進發展を示しつゝある

(2) 農業戸数及人口調

年次	戸數	本業		副業		計		自作人及小作人				
		男	女	男	女	男	女	計	自作	自兼小	小作	計
昭和9年	1,603	3,137	1,662	473	231	3,610	1,893	5,503	1,362	2,453	1,688	5,503
昭和8年	1,613	3,143	1,663	465	229	3,608	1,892	5,500	1,362	2,452	1,686	5,500
昭和7年	1,602	3,158	1,665	450	227	3,608	1,892	5,500	1,362	2,452	1,686	5,500

(3) 耕地面積

年次	田	畑	計
昭和9年	4,129	7,039	11,168

(4) 米麦其他食用農産物

種別	昭和9年					昭 作 反
	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	
米	3,916	7,519	198,209	1,920	26.36	4,125
麥	2,235	3,382	34,881	1,513	10.31	1,945
ソバ	42	42	336	1,000	8.00	40
サツマイモ	930	279,000	25,110	300	9	1,100
ジャガイモ	200	80,000	18,400	400	23	180
其他	222	138	2,540	622	18.41	72
計	7,545	11,081	279,476	—	—	7,462

(5) 園藝農産物

種別	昭和9年					昭 作 反
	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	
キウリ	26	13,000	6,500	500	50	25
カボチャ	50	20,000	3,000	400	15	40
スイカ	150	60,000	15,000	400	25	180
ナス	80	40,000	8,000	500	20	80
エンドウ	250	253	5,060	1,010	20	250
トマト	450	225,000	63,000	500	28	400
ナマダイコン	400	400,000	32,000	1,000	8	400
ニンジン	10	4,000	800	400	20	10
タマネギ	300	135,000	24,300	450	18	300
サトイモ	350	140,000	28,000	400	20	350
インゲン豆	250	325	6,500	1,300	20	250
其他	234	—	18,933	—	—	282
計	2,550	578	211,093	—	—	2,547

和8年				昭和7年			
收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高
11,172	213,225	2,585	19.08	4,322	12,101	354,705	2,800
2,997	42,037	1,541	14.28	2,195	2,959	27,502	1,348
40	320	1,000	8.00	40	40	320	1,000
330,000	29,700	300	—	1,250	375,000	33,750	300
72,000	15,840	400	22	150	60,000	10,800	400
49	1,048	681	21.41	77	49	1,102	623
14,258	302,170	—	—	8,034	15,149	328,179	—
402,000	—	—	—	—	435,000	—	—

和8年				昭和7年			
收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高
12,500	5,000	500	40	25	12,500	5,000	500
16,000	2,400	400	15	40	16,000	2,400	400
65,700	16,425	365	25	190	28,500	8,550	150
40,000	8,000	500	20	80	40,000	8,000	500
250	5,000	1,000	20	200	300	4,400	1,000
200,000	56,000	500	28	350	175,000	43,750	500
480,000	38,400	1,200	—	400	400,000	32,000	1,000
4,000	800	400	20	15	6,000	1,200	400
135,000	24,300	450	18	250	112,500	16,875	450
140,000	35,000	400	25	400	120,000	36,000	300
325	6,500	1,300	20	250	325	5,850	1,300
—	19,815	—	—	285	—	20,930	—
575	217,640	—	—	2,485	525	184,955	—
1,093,000	—	—	—	—	910,500	—	—

(6) 果 實

種 別	昭 和 9 年				昭 和 8 年
	樹 數	收 穫 高	價 額	單 價	
梅	511	61	915	15.00	502
桃	1,210	2,320	812	35	1,210
ビワ	607	1,120	448	40	607
イチゴ	380	75,552	248,100	3.25	370
ミカン	40,127	188,896	47,224	25	38,554
ナシ	6,795	68,254	11,603	17	6,780
計	49,250	260,590	309,102	—	47,653

(7) 茶 業

年 次	茶畑反別	茶業戸数	数 量	價 額
昭和9年	1,346	74	62,543	88,849
昭和8年	1,342	67	64,072	85,466
昭和7年	1,342	67	68,690	79,462

(8) 蠶 絲 (其1)

年 次	桑 畑 養 蠶 (春夏秋)							
	本反別	見積反別	計	飼育戸数	掃立量	收滿高	價 額	上繭1貫毎平均價格
昭和9年	22	28	50	10	368	275	632	2.30
昭和8年	23	28	51	10	405	293	1,633	5.57
昭和7年	23	28	51	11	451	324	860	2.65

蠶 絲 (其2)

年 次	数 量			價 額		
	製造戸数	生 糸	屑 物	製造戸数	産 額	價 額
昭和9年	—	—	—	—	—	—
昭和8年	—	—	—	1	16	368
昭和7年	—	—	—	1	20	440

和 8 年				昭 和 7 年			
收穫高	價 額	單 價	樹 數	收穫高	價 額	單 價	樹 數
61	976	16.00	490	52	936	18.00	—
2,200	836	38	1,280	2,112	845	40	—
1,665	583	35	608	1,456	510	35	—
65,185	264,000	4.05	180	75,000	270,000	3.60	—
192,575	48,144	25	38,455	192,225	38,445	20	—
44,070	9,695	22	6,750	43,875	8,775	20	—
61	324,234	—	180	239,698	319,511	—	—
240,510	—	—	47,573	75,000	—	—	—
65,185	—	—	—	—	—	—	—

3 畜 産 業

(1) 概 説

昭和9年における畜産額は約19萬余圓で畜市全生産額の0.7%であつて殆ど論ずるに足らないのであるが、然し次第に増加する傾向を呈してゐる、飼育戸数はそれ程増加しなくとも、飼育(羽頭)数は漸増しつゝあり、産額も毎年増加を見てゐる、今後望みありと思はれるのは養鶏であり、牛乳、養豚も夫々盛んになりつゝある

詳細の統計は次表を参照されたい

(2) 畜産類總額

年 次	家 畜		家 禽		産 卵		牛 乳		價額合計
	数量	價額	数量	價額	數量	價額	數量	價額	
昭和9年	499	2,695	58,344	59,428	5,014,320	100,310	669	26,760	189,157
昭和8年	571	2,981	52,004	57,499	4,558,913	91,191	668	33,800	185,571
昭和7年	417	2,313	58,640	53,431	4,986,930	99,751	611	30,550	186,045

(3) 家 畜

年次	名 稱	飼養戸數	成 畜			子 畜			年 内 出 産		
			牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計
昭和9年	牛	230	72	229	301	6	5	11	11	7	18
	馬	78	13	64	87	—	—	—	—	—	—
	豚	555	380	50	430	395	93	488	250	360	610
	兎	27	102	134	236	158	182	340	158	182	340
昭和8年	牛	232	79	232	311	9	5	14	9	5	14
	馬	84	14	80	94	—	—	—	—	—	—
	豚	553	372	55	427	390	82	472	231	340	571
	兎	21	85	122	207	145	167	312	145	167	312
昭和7年	牛	229	82	232	314	15	2	17	15	2	17
	馬	86	15	81	96	—	—	—	—	—	—
	豚	387	383	52	435	258	42	300	181	278	459
	兎	11	38	62	100	85	93	178	85	93	178

(4) 家 禽

年 次	飼養戸數	名 稱	羽 數	價 額	産卵價額	價額合計
昭和9年	897	鶏	58,336	59,414	100,264	159,678
	3	アヒル	8	14	46	60
昭和8年	880	鶏	51,843	57,377	91,152	148,529
	5	アヒル	162	122	39	161
昭和7年	902	鶏	58,631	53,418	99,712	153,130
	2	アヒル	9	13	39	52

(5) 牛 乳

年 次	搾乳戸數	頭 數	搾 乳 高	價 額
昭和9年	6	56	669	26,760
昭和8年	6	56	668	33,800
昭和7年	6	49	611	30,550

4 林 産 業

(1) 概 説

昭和9年に於ける林産は2,872圓で、當市生産物總額2,700圓に對しては比較にならない数字である、然も年々減少してゆくのは都市の性質上當然のことである、本市は三保、不二見方面に約190萬坪の林野があるが、前者は大部分名勝保存の爲めの保安林で林産物は殆んどなく、後者は無立木地過半を占めてゐる、用材は米材、沿海州材及北洋材等を主に使用し薪材の如きも製材工場の屑を殆んど只に等しき價額を以て買入ることが出来るので伐採する者はない、人口増加に伴ひ自然、耕地は宅地其他に潰廢せられ或は開墾して茶及柑橘畑等に變換せられるので恐らく將來に於ては本市に植林事業の起ることは想像されない

(2) 山林及林野産物

年 次	用 材		薪 材		竹 材		林野産物	價額合計
	伐採面積	數量	伐採面積	數量	伐採面積	數量		
昭和9年	—	—	42	423	2	45	2,474	2,872
昭和8年	—	—	45	450	1	50	2,478	2,905
昭和7年	—	—	78	775	5	195	2,575	3,458

5 水 産 業

(1) 概 説

昭和9年に於ける水産物總額は約137萬圓余であつて當市生産物の約5%に當つてゐる、その内産額の多いものはイワシ、鰹節、牡蠣、海苔である、次表に見へる如く水産漁獲物は31萬圓に過ぎないが伊豆、遠州、御前崎方面及三重、和歌山其他の遠洋漁船によつて當市々場に集められるものは相當多く其の額約2百萬圓に上つてゐる

尙近年維詰業の進展に伴ひ鮪の輸移入高は益々増加を見つゝある

次に注目すべきは牡蠣及海苔の養殖事業の將來である、本來なれば貿易港内の漁業は禁止されてゐるのだが、當市は古くより、清水港内即ち清水、不二見、駒越、折戸、三保本村等の沿岸に於ては特に前記養殖業が行はれてゐるが、近來港

内修築事業の進行につれて一部業者の免許が取消されるに至つた爲め、牡蠣及海苔の養殖場数は半減乃至3分の1に減じ、従つて其の産額の減するものも止を得ない、然し何れにしても港の完成と共にかゝる養殖場が自然消滅するの當然である、目下は折戸灣の一部と三保海岸の一部に海苔及牡蠣が養殖されてゐるに過ぎない

(2) 水産漁獲物

年次	カツラ		イワシ		サバ		マグロ		タビ	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和9年	—	—	458,000	45,800	17,816	13,184	6,130	6,130	3,380	10,624
昭和8年	—	—	1,170,500	93,640	34,220	25,323	2,000	2,000	4,383	11,724
昭和7年	—	—	76,300	47,580	25,000	20,000	18,000	14,400	6,050	15,965

年次	其他魚類		貝類		ニビ		其他水産物		合計	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和9年	175,487	163,176	15,420	4,641	108,100	49,200	1,900	3,575	786,233	296,330
昭和8年	132,920	132,037	15,666	4,700	80,670	38,302	1,850	3,500	1,472,209	311,226
昭和7年	114,555	117,429	16,100	4,508	23,600	20,296	2,250	4,350	284,855	244,528

(3) 水産製造物

年次	鯨		其他節類		煮干イワシ	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和9年	50,000	275,000	41,400	94,920	30,000	15,000
昭和8年	20,000	146,000	7,500	36,800	25,000	13,250
昭和7年	20,000	140,000	10,500	43,125	20,300	10,150

年次	其他食料品		其他水産製造物		計	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和9年	240,600	341,113	99,500	26,135	461,500	752,168
昭和8年	260,750	569,145	113,000	27,660	426,250	792,855
昭和7年	237,100	491,300	31,000	6,820	318,900	691,395

(4) 水産養殖物

年次	カ		キ		海苔		計		
	場数	面積	場数	面積	場数	面積	場数	面積	
昭和9年	1	5,071	73,068	2	5,239	150,000	3	8,310	223,068
昭和8年	4	36,240	82,290	2	5,239	117,720	6	41,479	200,000
昭和7年	4	36,211	76,695	4	19,560	48,575	8	56,071	125,570

6 工 業

概 説

製紙業、當市には元工業としては見るべきものがなかつたが、明治27年現在の株式会社巴川製紙所の前身太田製紙所が設立され、始めて機械工場の出現を見たのである、同工場は鳥の子紙を製造し、主に支那に輸出して當市工業の先驅をなしてゐる、其の後同工場は幾多の波瀾を経て東京井上源之丞の手に移り、大正6年組織を株式会社に改め主として、電信機用紙、電気絶縁紙等を抄造し、電信機用紙は通信省に、絶縁紙は住友、古河、藤倉、日本電線等の四大電線会社に納入して、完全に輸入を防遏しつつあり、其他煙草吸口用紙、プレスボード、プレスパン、包装用紙、ファイバーパーティメントペーパー、原紙及壁紙、切符用紙等の特種用紙を抄造して居り、昭和8年には静岡市用宗に用宗工場を建設し、印刷紙、書紙等をも抄造して居る。

大豆油、大豆粕業、大正6年現在の豊年製油株式会社が設立され、同工場の大豆油は同社鳴尾工場の生産を合せ、我國に於ける全産額の8割以上を占め、其の用途は内地に於ては食料、工業用とし、外國に於ては人造バタ、石鹼の原料として用ひられ、又同社の大豆粕は最も進歩した撒粕とし、滿州に於て從來の壓搾法に依れる板粕の改良せられたもので品質は優良である。

製材業、清水港重要産業の一たる製材製材業は關東震災を創期として、其の原料資材を北洋材に仰ぎ、之に適應した工場の設備と機構及び其の販売網組織の上に順調な發達を遂げ、殊に本港の地勢と氣候の關係により、木材製品の天然乾燥の好條件に恵まれ、清水北洋材製品として建築用材製材の優良なる事は、全国的に好評を博し、震災地復興建築一段落と雖も甚しき移輸出の滞潮を見るに至らなかつたのであるが、偶々昭和7年に於ける樺太製材制改革に依る島外移出材は年と共に減じて、昭和14.5年度に至つては一本の移出も見ざるに至るかの状態で

斯る急激なる島外移出制限は清水港の如き港灣都市製材製菓業者の致命的打撃であり、此の制限による北洋樺太材の急激なる供給減は、勢ひ北洋材の昂騰を招くに至つたが、其の製品の市價は之れに伴はず、到底採算の不可能なるために業者の轉業と廢業を余儀なくされしものもありたるも、昭和9年中に於ける生産額は建築材製菓品を合して430萬圓に及び斯然當市工業界の重鎮である。

而して前記の如き悲觀すべき材料ありとは云へ、港灣都市製材工場地としては船舶に依る輸入が可能で、而も經濟的資材となるべき條件も必須とするのであるから、此の條件に適合する原料資材を發見し得る日に於ては本港の木材産業は更に躍進するものと考へられる。

罐詰業、清水港重要輸出品の一つに對米輸出水産物の花形と謳はれる鮪油漬罐詰がある、顧みるに本邦に於ける鮪油漬罐詰業は從來幾多の難局に遭遇し、久しく中絶して居たが、對米原料關係の好條件を發見するに及んで再び業界の注意を喚起するに至つた。當時財界の不況、過去の経歴が本企業に災して容易に具体化するに至らず、偶々豈而研究中の静岡縣水産試験場に於ける昭和8年輸出試験の結果は、北米「ニューヨーク」市場に好評を博し、爾來農林省並に本縣水産試験場の指導に依り企業化し、先づ昭和4年2月清水食品株式會社が創業し、次で昭和6年度後藤罐詰所、昭和7年清水水産株式會社、昭和8年には櫻田、樂田、杉山罐詰所等頻々と開業し、一意産業開發を念とし盛んに歐米に輸出し、名譽を博して居る、昭和6年輸出は約30萬圓、昭和7年100萬圓、昭和8年500萬圓を突破するの盛況であつたが、昭和9年より生産統制を行ひし結果、全國の對米輸出は35萬箱に制限せられ、清水市内の工場の割當數量は約15萬箱、187萬圓となつたが、歐洲其他各國には益々販路開拓に邁進して居る。

(2) 工場總覽 (常時職工5人以上使用スルモノ)

工場種別	昭和9年					
	工場數	生産額	職工數			工場數
			男	女	計	
紡織工業	4	58,412	17	5	22	4
金屬工業	4	93,222	87	18	105	3
機械器具工業	15	408,844	183	9	192	13
化學工業	7	15,298,290	339	97	436	5
製材及木製品工業	36	4,364,783	1,037	111	1,148	39
印刷製本業	7	77,580	38	0	38	4
食料品工業	25	4,058,325	264	445	719	12
其ノ他ノ工業	22	835,255	287	119	406	13
計	120	35,189,711	2,202	814	3,016	9

再製鹽業、鈴與再製工場は本縣唯一の再製鹽工場にして、大正6年現所在地に製塩許可申請をなし、11月認可となり同7年製造に着手せるものにして、當時内地塩が非常な凶作のため、製品は兵庫縣、大阪府、京都以東、岩手、秋田縣に至るまで補充供給をなし、大いに官營事業を助け貢献をなせし所大である、其の後政府の唱導に依り藤下三保、相良、吉永に在る工場を合併し現在に至つた、生産額は年々増加し主なる販路として大阪、神奈川、縣内、愛知、三重、岐阜の諸縣の需用に應じてゐる。

内燃機關製造工業、當市に於ける内燃機關造工業は明治30年6月伊藤福太郎氏に依り蒸氣機關及内燃機關の製造及び修理工場を初めたを以て嚆矢とし、現に同工場は陸軍省御用、農林省指定工場として伊藤式ディセル機關の製造により全國的に進出してゐる、此の外望月鉄工所、角井鉄工所、中野鉄工所、小長谷鉄工所其他の修繕工場等がある、尙之に機械器具工場を合すれば其の數41に達し、其の年産額は80萬圓に上り、當市工業界の重要位置を占めてゐる。

紙布原料、明治45年テープ状和紙を燃つて之れにコロゲン塗料を塗布し、光澤及耐水性を付與し、パナマ帽子原料となすことを考案、大正3年4月市内入江に原料工場を設立し今日に至つた。當初は主として内地需用のみであつたが漸次海外の注意を喚起し、昭和9年度神戸港輸出總額900萬圓を見るに至つた。之と併せて同一原料を以つて機織する布帛輸出も逐年増加し、昨今の商況は模造パナマ帽子の輸出額を凌駕せんとする趨勢にあり、尙ハンドバッグ其他の手藝品として嗜好に適し益々需用を増してゐる。

以上の外主要生産物に塗料の39萬圓、船舶の31萬圓、木製品の28萬圓、製氷の15萬圓、清酒の18萬圓、醬油綿織物の10萬圓等がある。

生産額	昭和8年			昭和7年				
	男	女	計	工場數	生産額	職工數		
						男	女	計
68,671	6	32	38	4	130,928	7	39	46
57,593	50	12	62	4	54,008	28	4	32
519,770	294	9	303	14	346,498	184	12	196
13,507,190	285	53	338	7	11,702,036	286	40	306
4,322,809	1,130	100	1,230	43	3,191,044	1,147	67	1,214
41,226	20	0	20	5	40,328	25	0	25
6,158,851	219	695	914	10	3,002,329	159	480	639
419,643	119	134	253	14	453,075	128	121	249
25,095,753	2,123	1,035	3,158	101	18,920,236	1,944	763	2,707

工場

工場名	所在地	電話番号
望月噴霧器製作所	辻	
岩崎紙布工場	全 447	
劍持醬油醸造業	全 623	清水 149
鈴木洋服店	全 798	
伊豆川酒造場	全 805	全 660
榛葉鑄物工場	全 916	全 708
合資會社大塚製材所	全 930	全 393
合資會社新間製材所	全 940	全 720
龍東材木株式會社	全 946	全 539
マニラヤ洋家具店	全 1,025/1	全 951
橋本工場	全 1,061	全 71
清水日々新聞社工場	全 1,073	全 719
三浦鐵工所	全 1,176	
秋山洋服店	全 1,250	全 577
清水日報印刷工場	全 1,269	全 910
神谷印刷所	全 1,512	全 915
池上噴霧器製作所	江尻 30	全 325
合資會社望月商店	全 57	全 127
池上鐵工所	全 161	全 273
池上一作鐵工場	全 162/1	全 883
池政鐵工所	全 189	全 959
高原印刷所	全 374	
內山洋服店	全 378	
堀折箱店	全 386	全 269
大畑筆筒店	全 403	
大浦製材工場	全 405/1	全 206
イキヤ印刷所	全 543	全 33
甘靜會所	全 655	全 837
西田製函所	全 692	全 616
栗田織布工場	全 950	全 200

總覽 (昭和9年末現在)

事業開始年月	主要事業	工場主
大正 12. 12	噴霧器製造業	望月 隆吉
明治 5. 5	紙布製造業	岩崎 菊次郎
安政 年間	醬油醸造業	劍持 幸司
昭和 元. 8	洋服裁縫業	鈴木 長太郎
明治 38. 12	和酒醸造業	伊豆川 常造
昭和 9. 4	鑄物業	榛葉 春吉
全 8. 7	製材製函業	合資會社大塚製材所
全 9. 7	製函業	合資會社新間製材所
明治 30. 6	製材製函業	龍東材木株式會社
大正 13. 4	洋家具製造業	内藤 貞一郎
明治 39. 4	製茶機械製作業	橋本 順作
昭和 3. 8	新聞印刷業	若林 朝今一郎
全 4. 3	木工機械修繕業	三浦 半一郎
全 4. 9	洋服裁縫業	秋山 爲吉
全 9. 7	新聞印刷業	清水 博助
全 7. 5	印刷業	神谷 興助
明治 38. 3	噴霧器製作業	池上 宇吉
昭和 元. 3	ソーヌ醸造業	合資會社望月商店
寛政 16. 5	鐵工業	池上 彌治郎
明治 21. 全	農具製造業	池上 一川作
大正 9. 全	鐵工業	池上 政次郎
昭和 元. 全	印刷業	高原 利市
大正 15. 9	洋服裁縫業	內山 太一郎
昭和 4. 4	折箱製造業	堀 芳太郎
大正 12. 4	家具製造業	大畑 英男
全 12. 12	製材業	大浦 亮一郎
全 8. 9	印刷業	磯田 長作
昭和 元	菓子製造業	藤浪 才治
大正 13. 4	製函業	西田 政治
全 13. 9	綿織物業	栗田 富三郎

三田織布工場	江尻	1,354	
東海中正新聞社工場	全	1,468	清水 272
小長井建具店	全	1,469	全 888
岡田酒造場	入江	24	全 798
小長井筆筒店	全	61	全 31
株式会社巴川製紙所	全	74	全 666
ヤマト興業株式会社清水工場	全	364	全 698
伏見織布工場	全	630	全 215
合資会社鈴奥自動車工場	全	706	
望月瓦工工場	全	1,402	全 744
藤下帯製造工場	全	2,107	全 1,095
五島製鉛所	全	2,572	全 895
清水燐寸合資會社	全	2,682	
太田商會	全	2,769	全 355
長島化學製品所	全	2,789	全 574
合資会社マルキタ合劑製造所	全	2,793	全 173
望月ニア工場	全	2,794	全 870
天龍製材株式会社清水支店	全	2,794	全 713
牧田製材所	上清水	2,799	全 680
岸山洋服店	全	1,117	全 601
長澤金網工場	全	123	全 602
山二工場	全	130	全 635
北川雜木製材所	全	130	全 1,077
柴田鐵筋コンクリート土管製造所	全	168	全 438
杉山家具店	全	267	全 1,210
田中洋服店	高世町一丁目41	267	全 683
村上釣針製造所	全	88	全 61
中村織布工場	全二丁目12	123	全 62
北川製材所	全	13	全 41
坂本製材工場	全	13	全 241
角井鐵工場	松原町三丁目7	13	全 435
寺田鐵工場	全	11	
合資会社菊菱工業所	全	19	全 521
	桑地町一丁目59		
	全三丁目26		
	全	28	全 790
	全	33	全 701

明治 30. 2	綿織物業	三田延太郎
大正 8. 10	新聞印刷業	佐藤文雄
明治 18. 全	建具製造業	小長井鉄藏
慶應 3.	和酒醸造業	岡田大三
明治 18.	筆筒製造業	小長井儀兵衛
大正 6. 8	製紙業	株式会社巴川製紙所
昭和 2. 6	人造毛皮製造業	ヤマト興業株式会社
明治 35. 3	綿織物業	伏見松次郎
昭和 8. 5	自動車修繕機械工作業	合資会社鈴奥自動車工場
明治 27. 全	製瓦業	望月幸太郎
全 8. 8	帯製造業	藤下菊松
昭和 9. 12	製鉛業	五島千代吉
全 6. 2	燐寸製造業	清水燐寸合資會社
大正 14. 11	夏帽子原料紙布製造業	太田備
全 5. 1	塗料製造業	長島銀藏
昭和 7. 12	農薬製品製造業	合資会社マルキタ合劑製造所
全 5. 7	ニア板製造業	望月政吉
大正 12. 4	製材製函業	天龍製材株式会社
全 11. 9	製材業	牧田新一郎
全 13. 全	洋服裁縫業	岸山重郎
明治 6. 3	万石籠等製造業	長澤重兵衛
全 30.	清涼飯料水園油醸造業	波邊清吉
昭和 9. 1	製材業	北川信一
大正 13. 全	鐵筋コンクリート土管製造業	柴田準藏
全 13. 7	洋家具製造業	杉山梅吉
全 13. 3	洋服裁縫業	田中藤作
明治 34. 3	釣針製造業	村上貞治
全 10. 全	漁網製造業	中村清治
大正 12. 11	製材業	北川春吉
昭和 7. 10	全	坂本直樹
大正 12. 9	内燃機修理業	角井仲藏
全 13. 5	鐵工業	寺田喜代太
全 5. 1	人造毛皮製造業	合資会社菊菱工業所

合資會社 清水鑄造鐵工所	築地町二丁目57	清水	869
清水食品株式會社	全三丁目22	全	650
宗 鐵 詰 所	全 41	全	917
大 萬 造 船 所	全 41	全	628
森 田 造 船 所	全 63		
新 清 堂 本 店	港町一丁目23	全	243
後 藤 鐵 詰 所	全二丁目56	全	342
望 月 鐵 工 所	全 82	全	98
飯 沼 鐵 詰 所	全 159	全	614
中 源 洋 服 店	全三丁目43	全	677
大 村 鑄 造 所	全 72	全	956
池 治 酒 造 場	全 139	全	822
鈴 興 再 製 鐵 工 場	全四丁目 5	全	76・77・78
豐年製油株式會社清水工場	新港町 2	全	604・605
鈴 興 煉 炭 工 場	全 7・1	全	606
大 清 鐵 詰 所	日之出町一丁目4	全	807
株式會社 東郷水糖清水工場	全 25	全	64
仲 井 製 材 所	富士見町一丁目14	全	775
渡 邊 製 材 所	全 50	全	858
川 口 製 材 所	全二丁目 2	全	793
清水水産株式會社	全三丁目13	全	537
不 二 見 屋 製 材 所	清開 27	全	262
伊 藤 鐵 工 所	全 139	全	785
鈴 惣 飲 料 水 製 造 工 場	入船町二丁目5	全	788
中 野 鐵 工 所	全 8	全	223
小 長 谷 鐵 工 所	全 27		
日本食料工業株式會社清水第一製水工場	全三丁目 8	全	245
船 橋 會 社	清水 67	全	583
大 橋 家 具 店	全 357		
西 貝 印 刷 所	全 385	全	475
海 老 岡 筆 筒 店	全 502		
杉 山 鐵 詰 工 場	全 752	全	416
渡 邊 鐵 布 工 場	北矢部 76	全	318

大正 9. 1	鑄 物 業	合資會社 清水鑄造鐵工場
昭和 5. 3	鐵 詰 業	清水食品株式會社
全 9. 4	全	宗 鐵 詰 所
大正 12. 8	造 船 業	大 萬 造 船 所
全 14. 5	全	森 田 造 船 所
明治 10. 5	藥 子 製 造 業	新 清 堂 本 店
昭和 6. 4	鐵 詰 業	後 藤 鐵 詰 所
大正 9. 10	內 燃 機 關 修 理 業	望 月 鐵 工 所
昭和 9. 5	鐵 詰 業	飯 沼 鐵 詰 所
大正 10. 4	洋 服 裁 縫 業	中 源 洋 服 店
昭和 5. 11	鑄 物 業	大 村 鑄 造 所
明治元	和 酒 釀 造 業	池 治 酒 造 場
大正 7. 7	再 製 鐵 業	鈴 興 再 製 鐵 工 場
全 6. 1	大豆油撒大豆粕製造業	豐年製油株式會社清水工場
昭和 7. 8	煉 炭 製 造 業	鈴 興 煉 炭 工 場
全 9. 5	鐵 詰 業	大 清 鐵 詰 所
全 9. 6	水 糖 水 密 等 製 造 業	株式會社 東郷水糖清水工場
大正 13. 5	製 材 業	仲 井 製 材 所
全 8. 8	全	渡 邊 製 材 所
昭和 5. 4	全	川 口 製 材 所
全 8. 5	鐵 詰 業	清水水産株式會社
大正 12. 9	製 材 貨 挽 業	不 二 見 屋 製 材 所
明治 36. 6	アイセル機關製造業	伊 藤 鐵 工 所
全 37.	清涼飲料水製造業	鈴 惣 飲 料 水 製 造 工 場
昭和 9. 11	內 燃 機 關 修 理 業	中 野 鐵 工 所
大正 8. 11	全	小 長 谷 鐵 工 所
全 8. 6	製 水 冷 藏 業	日本食料工業株式會社
慶應年間	藥 子 製 造 業	船 橋 會 社
大正 12. 9	洋 家 具 製 造 業	大 橋 家 具 店
明治 44. 3	印 刷 業	西 貝 印 刷 所
大正 13. 6	筆 筒 製 造 業	海 老 岡 筆 筒 店
昭和 8. 5	鐵 詰 業	杉 山 鐵 詰 工 場
全 9. 1	紙 布 製 造 業	渡 邊 鐵 布 工 場
		宗 鐵 詰 所
		大 萬 造 船 所
		森 田 造 船 所
		新 清 堂 本 店
		後 藤 鐵 詰 所
		望 月 鐵 工 所
		飯 沼 鐵 詰 所
		中 源 洋 服 店
		大 村 鑄 造 所
		池 治 酒 造 場
		鈴 興 再 製 鐵 工 場
		豐年製油株式會社清水工場
		鈴 興 煉 炭 工 場
		大 清 鐵 詰 所
		株式會社 東郷水糖清水工場
		仲 井 製 材 所
		渡 邊 製 材 所
		川 口 製 材 所
		清水水産株式會社
		不 二 見 屋 製 材 所
		伊 藤 鐵 工 所
		鈴 惣 飲 料 水 製 造 工 場
		中 野 鐵 工 所
		小 長 谷 鐵 工 所
		日本食料工業株式會社
		船 橋 會 社
		大 橋 家 具 店
		西 貝 印 刷 所
		海 老 岡 筆 筒 店
		杉 山 鐵 詰 工 場
		渡 邊 鐵 布 工 場

渡邊水製瓦工場	北矢部 289	清水 691
深江式工業所	村松 1,089	全 549
渡邊製材製面工場	駒越 253	全 360
大力製材合資會社	全 259	全 1,136
藤製材所	全 317	全 368
福島製材合資會社	全 343	全 1,134
酒井製材所	全 507	全 1,131
三吉製材所	折戸 6	全 1,129
丸サ折戸製材所	全 78/1	全 1,125
増田製材所	全 237	全 1,166
西谷製材所	全 248/2	全 1,191
福島製材合資會社三保工場	全 263	全 1,169
三浦造船所	三保 190/2	三保 51
柴田織詰所	全 483	清水 1,165
松下織詰所	全 485	三保 29
塚間造船所	全 496	清水 1,162
合資會社小柳造船分工場	全 500	三保 107
宮城島酒造場	全 1,026	全 123
株式會社三保造船所	全 2,894/8	清水 214
櫻田織詰所	全 2,942/2/2/1	三保 77
山本製材製面工場	全 3,600	全 58
滿留加製材所	全 3,601	全 30
合資會社金指造船所	全 4,010/19	全 59
		全 63
		全 31
		全 106
		全 52

大正 7.12	製瓦業	渡邊 孝
昭和 2.3	△製品製造業	深江 幸太郎
大正 13.4	製材製面業	渡邊 銀作
昭和 9.8	全	大力製材合資會社
全 3.7	全	藤 義平
大正 13.5	全	福島製材合資會社
全 15.1	全	酒井 榮一
昭和 4.4	製面業	小花 二郎次
全 3.6	全	佐々木 又三
大正 13.11	製材製面業	増田 麟三
昭和 3.2	全	西谷 保之助
全 4.1	全	福島製材合資會社
大正 14.7	造船業	三浦 虎吉
昭和 8.3	織詰業	柴田 太吉
全 8.8	全	松下 業治
大正 10.10	造船業	櫻田 榮作
全 15.4	全	合資會社小柳造船所
明治 32.10	和酒醸造業	宮城島 重男
大正 8.6	造船業	株式會社三保造船所
昭和 8.1	織詰業	櫻田 虎藏
全 5.7	製面業	山本 嘉之
全 8.1	製材製面業	塚本 仙太郎
大正 8.7	造船業	合資會社金指造船所

(3) 工業製品 (其1)

年次	大豆油		養蚕糸		再製糖	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	38,532,243	5,394,514	3,762,668	150,507	7,872,657	331,028
昭和8年	28,781,000	4,669,820	3,875,930	155,037	7,446,680	315,650
昭和7年	31,966,072	5,434,232	4,805,000	192,220	7,782,260	313,780

工業製品 (其2)

年次	大豆粕		肥料		清涼飲料水	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	210,855,496	6,747,375	-	-	-	46,855
昭和8年	152,370,000	6,284,250	-	-	-	49,735
昭和7年	165,139,982	6,953,263	-	-	-	40,525

工業製品 (其3)

年次	清酒		麵類		味噌	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	2,345	185,872	54,810	30,146	26,550	10,620
昭和8年	2,134	145,112	49,500	24,250	21,120	8,448
昭和7年	1,903	152,240	50,530	23,749	22,450	8,531

工業製品 (其4)

年次	菓子		西洋紙		綿織物	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	-	186,700	9,485,674	1,554,123	65,610	103,646
昭和8年	-	130,582	10,402,000	1,140,443	69,001	94,914
昭和7年	-	113,550	7,364,283	1,003,420	225,796	126,299

工業製品 (其5)

年次	皮革製品		染物		生糸	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	-	40,640	-	14,101	-	-
昭和8年	-	38,485	-	12,135	-	-
昭和7年	-	36,137	-	11,511	-	-

工業製品 (其6)

年次	竹製品		機織		木製品	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	884	15,725	847,800	93,258	-	282,626
昭和8年	808	15,123	2,954,400	91,782	-	271,718
昭和7年	874	18,226	3,160,933	94,828	-	316,221

工業製品 (其7)

年次	製材品		節油漬織詰		節味付織詰	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	-	4,316,943	203,064	2,473,081	35,551	164,566
昭和8年	-	5,256,905	323,260	4,397,667	33,402	156,331
昭和7年	-	3,191,044	194,965	2,311,163	5,978	26,230

工業製品 (其8)

年次	製材織詰		節水煮織詰		節油漬織詰	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額
昭和9年	17,658	123,171	-	-	4,103	64,701
昭和8年	24,901	176,133	493	7,913	75,231	730,825
昭和7年	7,944	53,793	3,164	85,541	281	2,815

工業製品 (其9) 品 類 業 工

年次	各種機械類		瓦		船 舶	
	数量	價 額	数量	價 額	数量	價 額
昭和9年	—	643,850	—	36,190	—	317,690
昭和8年	—	402,709	—	29,085	—	410,000
昭和7年	—	327,550	—	24,118	—	110,000

工業製品 (其10) 品 類 業 工

年次	其 他		價 額 合 計
	数量	價 額	
昭和9年	—	1,840,560	25,159,488
昭和8年	—	1,760,960	26,774,868
昭和7年	—	691,429	21,735,413

7 商 業

(1) 概 説

清水市貿易の沿革

當市は天然の良港たる關係上、古くより物資の交易は殷盛であつて、古きを尋ねれば遠く安閑天皇の御代に遡るべく、之を近世日本産業の萌芽時代に求むるならば徳川初期に見ることが出来る

即ち徳川初期に於ては當港に船手をおき、船廠を建て幕府の水軍の根據地となし、又42軒の諸問屋を特許し湊方(海事事務)を設けて大に海陸の交易を奨励した、かくて駿河甲州の貨物は皆清水に集散されたのであつた

越へて明治時代に入り、漸く國際の關係は密接を加へ政府も又海外貿易の振興

を奨励するやうになつたので、當地の人民は明治28年帝國議會開設以來學つて當港が貿易港とならんことを求めたのである、當時、甲信二國の貨物は天龍川を下り愛知、岐阜、三重の諸國のそれは陸路をとり、夫々清水港に集められ、更に外國に出されたるものは當港より横濱に回送されてゐた、即ち中継貿易港であつてその煩雜並に無駄な運賃は相當の額に上つたのである、これを明治28年の茶の輸出額丈に見ても400萬圓であつて、これは直接清水より輸出されぬ爲であつた

かくて輿論の熱情は政府を動かして明治29年10月勅令を以て開港外貿易港(日本船舶のみによれる外國貿易港)となり、越えて32年8月純然たる貿易港になつたこの時までの我邦に於ける外國貿易港は横濱、神戸、長崎、函館、新潟の5港のみであつて、これより後清水港と共に開港に指定されたものは2港であつた

清水港内外貿易

清水港は他の多くの開港場の傾向と其の軌を一にして、初めは輸出の方が輸入より活潑であつた、これを數量に見る時、明治42年の出入貨物は輸入18,524噸、輸出21,723噸であつたが大正5年は輸出13,893噸、輸入19,430噸であり、豊年製油工場の設立された大正6年は輸出14,927噸、輸入66,671噸、昭和9年になると輸出63,850噸、輸入は331,027噸に激増した、これら數量の著しき差異は輸出は殆ど製茶のみで而も箱の數量を加算してゐないことと、輸入に於ては大豆、飼料及豆粕が主要貨物であつたからで、昭和9年の清水港外國貿易額は輸出14,065,455圓、輸入16,544,407圓である

尙全國に於て當港は第9位の輸出額を有し、第10位の輸入額を持つて居る(巻頭第4表第5表参照)これを明治32年約200萬圓の内外貿易額より出發した當港の進歩は實に隔世の感ありと云はねばならぬ

次に内國貿易を見ると、明治32年は移出1,584,819圓、移入180,713圓、合計約287萬圓であつて、明治38年の移出入合計955萬圓を絶頂として漸減の傾向を辿り大正3年のそれは約390萬圓であつた、これは對外貿易に押されて次第に中継貿易港の面目を改めたことであつたが、更に本市に生産工業が盛んになるや俄然材料の需要は内國貿易も刺戟されて、大正13年には移出は僅か148萬圓余のところ移入は3千萬圓を越えてゐた、昭和9和に於ける移出額は3,785,284圓、移入27,546,031圓、計31,271,315圓で、噸數は移出159,841噸、移入720,414噸である

大正13年、全14年、全15年移出入總額が常に8千萬圓を越えてゐたことは關東大震災のため横濱港又陸路交通の復興せざりしたためで、これは一時の變態的現象であつたが、本市産業の發展に伴ひ堅實なる發達をとげて内國貿易額3千萬圓を突破するに至つた

次に品種別に内外貿易を観察するときは輸出の製茶、輸入の大豆は最も著名で昭和9年に於ける製茶の輸出額は7,433,265圓で當港輸出總額の53%を占め大豆の輸入額は12,079,854圓でこれは當港輸入總額の73%を占めてゐる。

清水港と製茶輸出とは到底切り離すことの出来ない程密接な関係があることは贅言を要せざるものであつて、明治33年に於ては僅か6萬圓の輸出額で未だに横濱神戸より輸出されてゐた、然るに明治39年5月創めて神奈川丸といふ輸出茶直航船の出るに至り一躍166萬圓の輸出額に上つた、爾來漸増の跡を辿り明治42年には1,400萬ポンド價額622萬圓に至り横濱の輸出額を超過すること91萬ポンドとなり名實共に我邦第一の製茶輸出港となつた、次いで大正6年には遂に1千萬圓を越すこと45萬圓の貿易額に至り、アメリカ合衆國、カナダ、ロシアには強く其の存在を刻銘せしめたのである。

製茶に次ぐ貿易額は昭和8年に於ては糖詰の3,190,705圓、大豆油536,993圓、蜜柑346,653圓等である、大豆油については本文工業概説に於ても説明したからその詳述を避けるけれども、上述の如く輸物中重要な位置を占めてゐる、蜜柑の輸出も又清水市の特徴であつて、全國に於て蜜柑を海外に輸出する港は横濱、神戸四日市と當港の四港であるが、清水は全國一で約80%の多額を輸出するのである。

昭和9年に於ける輸入の主なるものは大豆の12,079,854圓、豆粕の1,369,231圓、飼料の967,425圓、小豆の176,896圓、穀の282,054圓、石炭720,211圓、木材の206,592圓等である、本文「工業概説」に於て詳述せる如く大豆は殆ど全部豊年製油清水工場に入つて大豆油、大豆粕に生産され内外市場に送られるのである。

豆粕は肥料として、飼料は縣内及近縣に消費され、木材は主に樺太、沿海州、南洋及びアメリカ合衆國より來り、原木は主に本縣富士製紙工場及び縣内各地へ移出され、製材は關東地方、長野縣及山梨縣等に移送されるのである(本文「工業概説」参照)。

尙詳しくは次表に於て見られたい。

倉庫回漕

清水港は貨物の集散著しきため、夙に回漕及倉庫業は活潑である、現在法人倉庫業者は鈴興倉庫、清水倉庫の2社であつて、その倉庫總坪數合計7,862坪、昭和9年に於ける入庫高135,416噸、年末残高11,776噸である。

又回漕業者中主なる者は法人個人を合して4店であるがそれに従事する仲仕人足は毎日平均1,500人余あり、多い日は2,000人も働き、1年の雇人員を求むれば約84萬人である、この80%位は鈴興商店回漕部のものである。

會社金融

當市に本店を有する會社は昭和9年末現在で101社あり、之を前年の108社に比すれば7社の減である、今之を種類別に観ると、株式會社97、合資會社67、合名會社7であつて各之を前年に比較すれば株式會社の1、合資會社の4、合名會社の2の減少となる、又資本金に於ても昭和9年末現在の總額は8,870,467圓で前年より211,988圓を減じてゐる、之を會社別に観るに株式會社は7,902,000圓で前年より171,000圓を、合資會社は853,970圓で46,788圓を共に減じ、唯合名會社が114,490圓で前年より6,500圓の増加を見てゐる、尙拂込資本金(茲に拂込資本金と稱するは合名會社及び合資會社の出資金、株式會社の拂込資本の合計とす)に於ては昭和9年末の總額は6,837,710圓で前年に比すれば121,212圓の増加となり、之を會社別に観ると株式會社の5,869,250圓で1,129,960圓の増加をなし、合資會社は853,970圓で46,788圓を、合名會社は114,490圓で6,500圓を共に減じてゐる、尙又積立金に就て観る時は昭和9年末現在の總額は731,637圓で前年に比し76,979圓の増加をなし、一會社當り7,234圓の増加となるも、株式會社の716,899圓は97,440圓の減となり合資會社の13,738圓は20,461圓の増加であつて合名會社に於ては共に零で増減がない結果となる、更に又純損益金に於ては昭和9年末の純益金總額は517,431圓で一會社當り平均5,133圓となり前年より9,323圓を増し、又純損金總額は80,886圓で一會社當り平均901圓となり、純益金より純損金を控除した額即ち會社全体としての純益金總額は436,545圓で前年に比較すると389圓の増となり純益金の總額は一會社當り平均4,332圓となる、今此の純損益金を前年に比較する時は純益金に於ては株式會社は2,465圓、合資會社は7,052圓の増となり、合名會社のみ189圓の減となる、又純損金に於ては合資會社は18,637圓の増となり、株式會社は11,915圓、合名會社は9,251圓の共に減となる、而して是等會社の昭和9年末に於ける配當金の總額は320,257圓で、前年に比する時は35,650圓の増加を見一會社當り3,171圓となり、之も亦前年より536圓増加してゐる、今之を會社別に観るときは株式會社311,782圓、合資會社8,495圓で合名會社は零となつてゐる。

種類	昭和9年末現在	昭和8年末現在	増減	種類	昭和9年末現在	昭和8年末現在	増減
株式會社	7,902,000	8,073,000	-171,000	合資會社	853,970	807,182	46,788
合資會社	853,970	807,182	46,788	合名會社	114,490	107,990	6,500
合名會社	114,490	107,990	6,500	計	8,870,467	9,082,172	-211,988

(2) 清水港

年次	區別	穀類	飲食品	建築材料
昭和9年	移入	6,426,192	5,446,207	9,123,741
	移出	140,357	698,094	1,645,721
	輸入	12,264,606	39,095	206,592
	輸出	—	11,654,728	—
計	移輸入	18,690,798	5,485,302	9,330,333
	移輸出	140,357	12,352,822	1,645,721
昭和8年	移入	3,418,921	6,516,229	8,060,796
	移出	197,277	891,865	1,509,944
	輸入	10,540,701	144,493	470,147
	輸出	6,977	7,702,651	—
計	移輸入	13,959,622	6,660,722	8,520,943
	移輸出	203,654	8,594,516	1,509,944
昭和7年	移入	2,131,111	5,180,397	4,491,761
	移出	43,095	614,247	1,326,638
	輸入	8,954,534	141,048	550,010
	輸出	—	9,554,895	—
計	移輸入	11,085,645	5,321,445	5,041,771
	移輸出	43,095	10,168,642	1,325,638

(3) 主要貨物

品名	主ナル國	輸出		
		昭和9年 價額	昭和8年 價額	昭和7年 價額
製茶	合衆國	8,037,741	7,490,635	7,830,871
大豆	カナダ	586,993	324,669	991,131
大豆	イギリス	46,504	79,450	686,904
蜜柑	合衆國	346,653	300,133	215,573

内外貿易

穀料品	肥料	其他	計
3,650,701	628,214	2,270,976	27,546,031
460,421	84,396	696,295	3,725,284
896,437	1,397,433	2,050,244	16,854,407
—	—	2,410,727	14,065,455
4,547,138	2,025,647	4,321,220	44,400,438
460,421	84,396	3,107,022	17,790,739
3,849,134	907,664	4,487,006	27,229,750
852,826	99,695	630,384	4,231,991
751,475	1,059,639	969,152	13,935,667
—	—	8,603,447	16,312,475
4,600,609	1,967,363	5,456,158	41,165,417
852,826	99,695	9,283,831	20,544,466
2,738,731	1,449,833	4,308,088	20,299,927
560,982	77,262	889,786	3,511,010
626,329	957,067	555,029	11,784,017
—	—	2,071,056	11,625,451
3,365,360	3,406,900	4,863,117	32,083,938
560,982	77,262	3,960,842	15,136,461

輸出入状況

品名	主ナル國	輸入		
		昭和9年 價額	昭和8年 價額	昭和7年 價額
大豆	關東支州	12,079,854	10,349,973	8,617,874
豆粕	關東支州	1,369,230	1,059,699	709,526
硫酸肥料	ドイツ	—	—	58,463
鐵	關東支州	282,054	179,424	234,327

品名	合カ	州	州	州	円	円	円
雑	合カ	州	州	州	3,190,705	7,187,142	1,885,409
シイタケ	合カ	州	州	州	16,598	11,661	6,559
油	合カ	州	州	州	23,214	31,448	22,398
其他	合カ	州	州	州	1,317,047	887,247	437,106
計	合カ	州	州	州	14,065,455	16,312,475	11,625,451

(4) 主要貨物

品名	移 出		
	昭和9年	昭和8年	昭和7年
製材品	1,427,023	1,137,363	1,226,810
カシ	238,050	320,442	492,623
其他	2,060,211	2,779,186	1,791,577
計	3,725,284	4,236,991	3,511,010

(5) 清水港輸

國 別	輸 出		
	昭和9年 價 額	昭和8年 價 額	昭和7年 價 額
北米合衆國	7,465,708	12,494,194	6,705,363
ロシヤ	1,626,987	1,549,720	1,331,684
カナダ	1,085,357	722,648	874,623
オランダ	157,458	7,850	533,286
關東州	1,394,323	652,273	967,479

品名	關東州	關東州	關東州	円	円	円
石炭	關東州	關東州	關東州	720,211	634,090	626,322
木材	關東州	關東州	關東州	206,592	470,147	650,010
小豆	關東州	關東州	關東州	176,896	178,211	182,849
其他	關東州	關東州	關東州	2,019,570	1,064,123	804,639
計	關東州	關東州	關東州	16,854,407	13,935,667	11,784,017

移出入状況

品名	移 入		
	昭和9年	昭和8年	昭和7年
木材	7,732,403	8,050,796	4,491,761
石炭	2,982,181	2,429,614	2,394,490
米	5,737,212	2,764,688	1,524,942
食塩	994,278	1,071,872	738,288
鮮魚	2,147,230	2,072,770	2,160,038
セメント	902,031	888,810	1,144,532
其他	—	8,951,200	7,845,870
計	27,546,031	27,229,750	20,299,921

出入國別表

國 別	輸 入		
	昭和9年 價 額	昭和8年 價 額	昭和7年 價 額
關東州	13,894,642	12,051,976	6,142,038
關東州	1,496,874	763,716	4,507,445
中華民國	277,436	184,004	132,941
トナツ	—	—	58,463
北米合衆國	302,511	327,059	236,505
カナダ	—	28,237	28,577

イギリス	823,966	388,855	465,010
ハワイ	36,785	72,006	59,772
ドイツ	140	—	—
其他	1,474,731	424,899	688,234
計	14,065,455	16,312,475	11,625,451

(6) 銀

年次	店 籍 地 別	店 数
昭和9年	當所本店	2
	他所支店	7
	計	9
昭和8年	當所本店	2
	他所支店	8
	計	10
昭和7年	當所本店	3
	他所支店	8
	計	11

銀

年次	銀 行 別	預	
		本年中預り高	本年中支拂高
昭和9年	當所本店	28,903,262	27,886,886
	他所支店	80,512,054	79,416,557
	計	109,415,316	107,325,443
昭和8年	當所本店	21,739,519	24,030,482
	他所支店	74,450,891	73,486,068
	計	99,190,410	97,511,545
昭和7年	當所本店	33,420,410	22,178,385
	他所支店	61,417,674	60,997,766
	計	84,838,074	83,066,151

ソビエツトロシヤ	677,129	344,751	395,378
イギリス	—	—	—
佛領印度	23,250	58,919	61,952
其他	182,565	177,005	220,528
計	16,854,407	13,935,667	11,784,017

行 (1)

資本金	拂込高	準備金
2,520,000	1,633,500	299,100
2,520,000	1,633,500	299,100
2,520,000	1,633,500	293,100
2,520,000	1,633,500	293,100
2,520,000	1,633,500	275,100
2,520,000	1,633,500	275,100

行 (2)

金	貸 付 金		
	年末残高	本年中貸付高	本年中回収高
8,680,978	9,384,409	8,981,651	8,784,985
9,898,756	33,170,169	32,473,422	6,768,709
18,523,829	42,504,578	41,455,073	15,553,694
7,613,697	7,264,580	7,818,060	8,432,225
10,007,217	31,508,129	31,236,939	6,532,806
17,620,914	38,772,709	39,154,999	14,965,031
6,551,268	10,307,250	8,749,702	8,414,360
9,845,535	37,962,252	27,042,790	6,138,654
19,403,804	38,269,502	35,782,492	14,553,014



(7) 貯

年次	銀行貯金		現在	
	預り高	拂戻高	年末金額	1人平均額
昭和9年	331,076	342,902	3,236	249,560
昭和8年	566,319	442,400	6,656	421,206
昭和7年	259,762	213,893	3,982	271,860

(8) 質屋

年次	店数	年内	
		受戻金額	流質金額
昭和9年	15	84,478	7,423
昭和8年	16	72,788	7,524
昭和7年	15	51,648	9,939

(9) 産業

年次	組合数	組合員数	出資額		諸積立金
			出資額	拂込出資額	
昭和9年	5	1,958	179,231	145,000	10,884
昭和8年	5	1,932	177,480	147,336	7,776
昭和7年	5	1,918	180,170	146,204	10,903

(10) 手形

年次	組合行数	枚数
昭和9年	10	36,357
昭和8年	11	33,750
昭和7年	12	20,543



金

郵便貯金		貯金	
預入	口数	金額	新規預入人員
163,587	41,908	1,369,295	6,519
153,639	39,594	1,458,108	6,465
120,808	35,490	2,406,974	9,162

貸付金

口数	年末
金額	金額
41,102	77,346
87,398	78,052
34,608	77,707

組合

借入金	貸付金		貯金		販賣高	購買高
	総額	1組合員當り	総額	1組合員當り		
98,081	538,766	275	541,581	277	177,001	108,364
185,902	542,882	281	441,575	229	135,290	59,273
199,314	587,711	306	461,129	240	119,225	104,725

交換所

交換高	交換残高
13,716,049	5,083,781
11,717,482	4,190,472
9,404,382	3,430,752

(11) 會 社

種 別	昭 和 9 年			昭 和		
	社 數	公 稱 資 本 金	拂 込 資 本 金	積 立 金	社 數	公 稱 資 本 金
水産業	—	—	—	—	—	—
工 業	37	3,862.190	2,489.190	267.377	36	2,745.900
商 業	54	2,219.770	1,503.520	133.060	60	2,343.848
銀行業	1	2,520.000	1,633.500	399.100	1	2,520.000
運輸業	9	1,268.500	1,213.500	31.100	11	1,473.000
計	101	8,870.460	6,837.710	730.637	108	9,081.748

會 社

年 次	種 別	社 數
昭 和 9 年	株 式 資 本 金	27
	株 合 名	67
	合 計	7
	計	101
昭 和 8 年	株 式 資 本 金	28
	株 合 名	71
	合 計	9
	計	108
昭 和 7 年	株 式 資 本 金	31
	株 合 名	70
	合 計	9
	計	110

總 覽 (其1)

8 年		昭 和 7 年			
拂 込 資 本 金	積 立 金	社 數	公 稱 資 本 金	拂 込 資 本 金	積 立 金
2,158,400	274,286	39	3,604,733	1,529,500	112,669
1,556,598	119,729	60	2,315,550	1,013,750	120,539
1,633,500	287,100	1	2,520,000	1,633,500	275,100
1,368,000	35,550	10	1,434,000	1,295,000	39,750
6,716,498	646,665	110	8,874,283	5,471,750	548,058

總 覽 (其2)

公 稱 資 本 金	拂 込 資 本 金	積 立 金
7,902,000	5,869,250	716,899
853,970	853,970	13,738
114,490	114,490	—
8,870,460	6,837,710	730,637
8,073,000	5,707,750	619,450
900,758	900,758	34,199
107,990	107,990	—
9,081,748	6,716,498	653,658
7,992,000	5,471,750	514,072
782,283	—	—
100,000	—	33,986
8,874,283	5,471,750	548,058

(18) 會 社

商號又ハ名稱	所在地	主要業務
株式會社駿州銀行	辻 202	銀行業
龍東材木株式會社	全 946	製材業
清水港土地株式會社	全 1.227	土地所有保管業
清水瓦斯株式會社	全 1.253	瓦斯事業
株式會社九州石炭商會	全 1.527	石炭販賣業
駿遠鹽業株式會社	江尻 405	鹽元賣捌業
株式會社巴川製紙所	入江 364	製紙業
清水燐寸株式會社	全 2.969/1	燐寸製造業
清水木材株式會社	新港町 5/1	木材賣買業
清水運送株式會社	全	運送業
清水倉庫株式會社	日/出町二丁目2	倉庫業
山明商事株式會社	新港町 5/4	石炭販賣業
清江木材株式會社	入船町三丁目2	木材販賣業
株式會社清水木材倉庫	全 13	倉庫業
鈴與倉庫株式會社	全 12	倉庫業
清水水産株式會社	富士見町三丁目10	罐詰業
駿遠商事株式會社	港町三丁目22	船具等販賣業
株式會社天野回漕店	全 63	回漕業
青木運送株式會社	全 四丁目 10	運送業
株式會社清水魚市場	全 10	魚市場業
清水食品株式會社	築地町三丁目47	罐詰業
株式會社宮城島酒店	萬世町一丁目54	酒類販賣業
東海商船株式會社	全 二丁目15	回漕業
富士水産株式會社	清水 268	海産物製造販賣業
清水醬油株式會社	村松 1.061	醬油販賣業
株式會社不二見實行社	駒越 1.019	金錢貸付借入業
株式會社三保造船所	三保 2.894/8	造船業
合資會社青木材木店	辻 142	製材業
合資會社石月商店	全 167	掃帚業
合資會社小澤兄弟製函所	全 243	製函業

總 覽 (其3) (昭和9年末現在)

設立年月	公稱資本金	電話番號	代表者
昭和3.7	2,520,000	清水 172-502	青柳市太郎
明治31.5	65,000	全 539	小池文次郎
昭和4.10	200,000	全	佐野宥造
昭和4.10	500,000	全 533	前川道平
昭和9.12	30,000	全 901	稻田良靜
大正14.6	150,000	全 674	鈴木與平
大正6.8	1,500,000	全 666-698	井上光治郎
昭和9.12	19,000	全 355	山村其一郎
大正13.3	55,000	全 898	高塚龜一
昭和2.3	1,000,000	全 742	鈴木與平
明治29.1	100,000	全 299-188	前川道平
昭和3.4	60,000	全 312	内藤政登
昭和6.9	100,000	全 624	伊藤良三
大正15.5	300,000	全 705	鈴木與平
大正7.5	100,000	全 4-76-77-78-268	鈴木與平
昭和7.3	150,000	全 262	芝野榮七
大正9.3	50,000	全 70	青島清一
大正12.5	50,000	全 794-795	天野九右工門
大正3.3	100,000	全 508-509	望月益之助
昭和6.9	300,000	全 156-565	芝野榮七
昭和4.12	100,000	全 650-917	鈴木與平
大正13.8	300,000	全 746	山田乙吉
昭和2.6	50,000	全 759	中村藤太郎
昭和7.11	50,000	全 68	山梨重多
大正13.1	10,000	全 758	山本大次郎
大正2.10	11,000	全 1,004	岩崎啓次郎
大正8.5	32,000	三保 59	植田猪吉
昭和3.6	500	全	青木勝藏
昭和7.11	5,900	全	石月爲吉
昭和9.12	3,000	清水 1.107	小澤喜重

合資會社昭和堂小長井時計商店	清水	584	時計販賣業
合資會社南米商事會社	全	729	コーヒー販賣業
合資會社神戸自動車工作所	全	733	自動車修繕業
合資會社セーコー自動車商會	全	911/1	自動車部品業
合資會社高田洋服店	全	912	洋服裁縫業
合資會社大塚製材所	辻	930	製材業
合資會社池上米店	全	990	白米雜穀等販賣業
合資會社望月兄弟商會	全	1076	柑橘肥料等販賣業
清水貿易合資會社	全	1217	貿易業
合資會社井出商會	全	1350	米大豆肥料等業
合資會社神谷石材店	全	1422	石材販賣業
合資會社山崎庄十商店	全	1502	石炭販賣業
合資會社望月商會	江尻	31	柑橘販賣業
合資會社望月商店	全	57	ソーダ製造業
合資會社萬久呉服店	全	198	呉服販賣業
合資會社盛光堂印刷所	全	253/1	印刷業
東海製茶貿易合資會社	全	305	再製茶業
合資會社栗田呉服店	江尻	345	呉服販賣業
合資會社坪井本店	全	363	洋品販賣業
合資會社眞田百貨店	全	365	家具類等販賣業
合資會社金原商店	全	401	古物販賣業
合資會社西子洋品店	全	532	雜貨唐物類販賣業
合資會社眞砂屋商店	全	664	自轉車販賣業
合資會社長田酒店	全	689	酒類販賣業
一菱商店合資會社	全	935	小口金融業
合資會社吉田書店	上清水	64	書籍販賣業
小澤合資會社	全	154/2	製函業
合資會社山田喜作商店	入江	137	穀類販賣業
合資會社清水興業社	全	348/2	保險代辦業
合資會社清水プレーキ商會	全	1402	自動車修繕業
合資會社鈴與自動車工場	全	1402	全
合資會社清水自動車商會	全	1402	自動車運輸業

昭和2.10	1.250	入	小長井	助
昭和8.4	1.000	清水	飯田	伊平
昭和8.5	1.500	全	神戸	善太郎
大正15.8	7.000	全	寺田	忠吉
昭和5.3	1.500	全	高田	高吉
昭和8.6	40.000	全	大塚	辰平
昭和9.2	872	全	池上	賢太郎
昭和5.5	150.000	全	望月	益之助
昭和9.7	11.000	全	小島	國太郎
昭和5.10	4.000	全	井出	一朗
昭和6.5	2.000	全	神谷	庄吉
大正10.1	10.000	全	山崎	庄十
昭和8.9	2.000	全	望月	武藏
大正10.3	10.000	全	望月	良藏
昭和6.4	7.600	全	望月	青太郎
昭和6.6	4.000	全	田畑	知太郎
明治35.5	10.000	全	石貝	才治郎
昭和7.11	1.000	全	栗田	静子
昭和7.11	1.000	全	坪井	はつ
昭和8.12	5.000	全	眞田	千代
昭和2.10	5.000	全	金原	庄一郎
昭和6.15	3.600	全	西子	勝次郎
昭和8.3	3.808	全	望月	覺太郎
昭和2.11	2.000	全	長田	廣
昭和9.11	1.800	全	高野	春重
昭和6.1	8.500	全	吉田	正一
昭和9.4	1.100	全	小澤	茂吉
昭和8.5	2.000	全	山田	喜作
昭和8.13	3.000	全	内田	郁太郎
昭和7.11	3.500	全	松井	喜三郎
昭和8.5	80.000	全	櫻井	源作
昭和8.4	40.000	全	栢	森

合資會社 清水青果乾物市場	入江 1645	青物市場業
清水燒寸合資會社	全 1913/1	燒寸製造業
合資會社 〓ルキ合劑製造所	全 2794	農業藥劑製造業
清水製函合資會社	清水 127	製函業
合資會社 大安肥料店	全 148	肥料販賣業
山梨肥料合資會社	全 268	全
合資會社 九吉回漕店	松原町三丁目36	回漕業
合資會社 三盛樓	清水 508	料理業
合資會社 山平商店	全 583	貿易業
芝菜冷凍冷蔵合資會社	全 604	魚冷凍冷蔵業
壽合資會社	港町三丁目21	酒類販賣業
合資會社 池田商店	全 69	藥品販賣業
合資會社 深江商店	全 81	石材販賣業
合資會社 片山船具店	全 三丁目30	船具販賣業
合資會社 早川回漕店	全 45	回漕業
合資會社 清水鑄造鐵工所	築地町二丁目57	鑄物業
合資會社 大木回漕店	全 三丁目30	回漕業
合資會社 菊菱工業所	全 34	人造毛皮製造業
合資會社 安藤商店	萬世町二丁目9	石炭販賣業
合資會社 太田島組	全 11	土木建築請負業
合資會社 三共商會	全 12	味噌製造業
天城製材合資會社	松原町二丁目7	製材業
合資會社 海電社	萬世町二丁目18	電氣器具製造業
合資會社 森政材木店	入船町三丁目19	木材販賣業
合資會社 北川材木店	松原町三丁目19	全
東郷水糖合資會社	日之出町二丁目25	水糖等製造業
合資會社 旗石石炭商店	全 30	石炭販賣業
合資會社 清山月堂	村松 1083	菓子製造業
福島製材合資會社	駒越 343	製材業
合資會社 三保製材所	三保 533/3	朴下駄齒製造業
合資會社 金指造船所	全 4010/19	造船業
合資會社 岸山製材所	折戸 6	製材業

昭和 7. 5	29,000	清水	山 1,006	芝口 虎吉
昭和 6. 1	15,000	全	355	堀川 喜作
昭和 7. 11	20,000	全	713	多喜六 次郎
昭和 6. 11	3,000	全	643	外岡 松太郎
大正 9. 4	20,000	全	8	松浦 眞
明治 31. 12	50,000	全	68	山梨 重多
昭和 5. 7	10,000	全	1,087	天野 吉藏
昭和 4. 10	2,000			穴水 正雄
昭和 8. 11	12,000	全	782	山田 平一
昭和 8. 6	30,000	全	1,144	芝野 榮七
昭和 8. 6	850	全	621	加藤 題三郎
昭和 7. 8	4,000	全	763	池田 利平
昭和 2. 10	3,000	全	637	深江 仙助
大正 6. 1	30,500	全	106・505	片山 七兵衛
昭和 5. 10	5,000	全	199	早川 政高
昭和 3. 9	1,990	全	869	遠藤 市太郎
昭和 3. 12	3,000	全	10	大木 龜吉
昭和 5. 10	3,000	全	701	菊地 定吉
昭和 5. 2	5,000	全		安藤 半次郎
昭和 7. 10	5,000	全	190	太田 島萬太郎
昭和 6. 11	3,000	全	470	山崎 泰次郎
昭和 6. 3	30,000	全	857	坪井 庄吉
昭和 5. 4	13,100	全	1,054	村田 達平
昭和 6. 8	3,000	全		森 榮吉
昭和 3. 6	5,000	全	521	北川 春吉
昭和 9. 6	20,000	全	775	大久保 庄平
昭和 9. 11	5,000	全		丹羽 乙三
昭和 6. 2	3,000	全	981	石上 萬太郎
昭和 7. 5	30,000	全	1,120	福島 庄太郎
昭和 2. 3	10,000	全		井上新 太郎
大正 9. 2	100,000	三保	52	金指 文吉
昭和 3. 12	5,000	全		岸山 常太郎

合名會社	青木材木店	辻	0766	製材業
合名會社	江鐵自動車商會	全	1123	自動車運輸業
合名會社	橋本商店	江尻	0336	洋物卸賣業
丸一合名會社		全	0793	經節製造業
鶴之湯合名會社		松原町三丁目	8	湯屋業
大力製材合名會社		駒越	0359	製材製函業
合名會社	遠藤商店	三保	3182/2	穀類販賣業

工

商號又ハ名稱	所在地	主要業務
龍東材木株式會社	辻 0946	製材製函業
清水瓦斯株式會社	全 1253	瓦斯事業
株式會社巴川製紙所	入江 0364	製紙業
清水機寸株式會社	全 2960/1	機寸製造業
清水水産株式會社	富士見町二丁目 ¹⁰ ₁₃	罐詰業
清水食品株式會社	築地町二丁目47	全
富士水産株式會社	清水 268	海産物製造販賣業
株式會社三保造船所	三保 2894/8	造船業
合資會社青木材木店	辻 0142	製材業
合資會社小澤兄弟製函所	全 0243	製函業
合資會社高田洋服店	全 0912	洋服裁縫業
合資會社神戸自動車工作所	全 0733	自動車修繕業
合資會社大塚製材所	全 0930	製材業
合資會社望月商店	江尻 0057	ソックス製造業
合資會社盛光堂印刷所	全 253/1	印刷業
東海製茶貿易合資會社	全 0305	再製茶業
小澤合資會社	上清水 154/2	製函業
合資會社清水ブレーキ商會	入江 1402	自動車修繕業
合資會社鈴與自動車工場	全 1402	全

昭和 6.10	5,000	清水	174 • 572	青木康平
大正 3. 6	15,000	全	623	月見里久作
大正 6. 5	9,000	全	594	橋本季郎
昭和 9. 6	24,000	全	368 • 1,134	杉山熊吉
大正 14. 4	10,000	全	22	中村辨康
昭和 9. 1	50,000	全		酒井登志郎
昭和 8.10	5,990	三保		遠藤頼久

業 (昭和9年度現在)

設立年月	公稱資本金	電話番號	代表社員
明治 31. 5	65,000	清水 539	小池文次郎
昭和 4.10	500,000	全 533	前川道平
大正 6. 8	1,500,000	全 666 • 698	井上光治
昭和 9.12	19,000	全 355	山村其一郎
昭和 7. 3	150,000	全 262	芝野榮七
昭和 4.12	100,000	全 650 • 917	鈴木與平
昭和 7.11	50,000	全 68	山梨重多
大正 8. 5	32,000	三保 59	植田猪吉
昭和 8. 6	500		青木勝藏
昭和 9.12	3,000	清水 1,107	小澤喜重
昭和 5. 3	1,500	全 370	高田高吉
昭和 8. 5	1,500		神戸善太郎
昭和 8. 6	40,000	全 699	大塚辰平
大正 10. 3	10,000	全 127	望月良藏
昭和 6. 6	4,000		田畑太十郎
明治 35. 5	10,000	全 14	石貝才治郎
昭和 9. 4	1,100		小澤茂吉
昭和 7. 1	3,500	全 970	松井喜三郎
昭和 8. 5	30,000	全 744	櫻井源作

商

商號又ハ名稱	所在地	主要業務
清水港土地株式會社	辻 1.227	土地所有保管業
株式會社九州石炭商會	全 1.527	石炭販賣業
駿遠鹽業株式會社	江尻 405	鹽元販賣業
清水木材株式會社	新港町 5ノ1	木材販賣業
山明商事株式會社	全 5ノ4	石炭販賣業
清江木材株式會社	入船町三丁目 2	木材委託業
株式會社清水木材倉庫	全 13	倉庫業
鈴與倉庫株式會社	全 12	倉庫業
駿遠商事株式會社	港町三丁目 22	船具等販賣業
株式會社清水魚市場	全 四丁目 10	魚市場業
清水倉庫株式會社	日之出町一丁目 2	倉庫業
株式會社宮城烏酒店	萬世町一丁目 54	酒類販賣業
清水醬油株式會社	村松 1.061	醬油販賣業
株式會社不二見實行社	駒越 1.019	金銭貸付借入業
合資會社石月商店	辻 167	柑橘業
合資會社昭和堂小長井時計店	全 584	時計販賣業
合資會社南米商事會社	全 729	コ-ヒ-販賣業
合資會社セ-コ-自動車商會	全 911ノ1	自動車部分品販賣業
合資會社池上米店	全 990	白米雜穀等販賣業
合資會社望月兄弟商會	全 1.076	柑橘肥料等販賣業
清水貿易合資會社	全 1.217	貿易業
合資會社井出商會	全 1.350	全
合資會社神谷石材店	全 1.422	石材販賣業
合資會社山崎庄十商店	辻 1.502	石炭販賣業
合資會社望月商店	江尻 31	柑橘販賣業
合資會社萬久吳服店	全 198	吳服販賣業
合資會社栗田吳服店	全 345	全
合資會社坪井本店	全 363	洋品販賣業
合資會社眞田百貨店	全 365	家具類等販賣業
合資會社金原商店	全 401	古物販賣業

業

(昭和9年末現在)

設立年月	公稱資本金	電話番號	代表者
昭和4.10	200.000		佐野容造
昭和9.12	30.000	清水 901	稻田良衛
大正4.6	150.000	全八 674	鈴木與平
大正13.3	55.000	全全 898	高塚龜一
昭和3.4	60.000	全全 312	内藤政登
昭和6.9	100.000	全全 624	伊藤良三
大正15.5	300.000	全 705	鈴木與平
大正7.5	100.000	全 470・77・78・265	鈴木與平
大正9.3	50.000	全全 70	青島壽一
昭和6.9	300.000	全全 262	芝野榮七
明治29.1	100.000	全全 299・188	前川道平
大正13.8	300.000	全 746	山田乙吉
大正13.1	10.000	全全 758	山本大次郎
大正2.10	11.000	全全 1.004	岩崎啓次郎
昭和7.11	5.000	全全	石月爲吉
昭和2.10	1.250	全全	小長井壽助
昭和8.4	1.000	全全 1.102	飯田伊平
大正15.8	7.000	全全 862	寺田忠吉
昭和9.2	872	全 699	池上賢太郎
昭和5.5	150.000	全 12・411・412・413	望月益之助
昭和9.7	11.000	全 556	小島國太郎
昭和5.10	4.000	全 936	井出一朗
昭和6.5	2.000		神谷庄吉
大正10.1	10.000	全 136	山崎庄十
昭和8.9	2.000		望月武
昭和6.4	7.600		望月青太郎
昭和7.1	1.000		栗田静子
昭和7.11	1.000	全 407	坪井はつ
昭和8.12	5.000	全 198	眞田千代
昭和2.12	5.000	全 397	金原庄一

銀行

商號又は名稱	所在地	主要業務
株式會社駿州銀行	辻 202	銀行業

一五田
井喜田山
大田内
康井復高	...	運輸取

商號又は名稱	所在地	主要業務
清水運送株式會社	新港町 5ノ1	運送業
株式會社天野回漕店	港町二丁目 63	回漕業
青木運送株式會社	全四丁目 10	運送業等
東海商船株式會社	萬世町二丁目 15	回漕業
合資會社清水自動車商會	入江 1.402	運送業
合資會社丸吉回漕店	松原町三丁目 36	回漕業
合資會社早川回漕店	港町三丁目 45	回漕業
合資會社大木回漕店	築地町三丁目 30	回漕業
合名會社江鐵自動車商會	辻 1.123	乘合自動車業

三ノノ...

業 (昭和9年末現在)

設立年月	公稱資本金	電話番号	代表者
昭和3.7	2,520,000	清水 172・502	青柳市太郎

業 (昭和9年末現在)

設立年月	公稱資本金	電話番号	代表者
昭和2.3	1,000,000	清水 742	鈴木與平
大正12.5	50,000	全 794・795	天野九右衛門
大正3.3	100,000	全 508・509	望月益之助
昭和2.6	50,000	全 759	中村藤太郎
昭和8.4	40,000	全 744	栢森賜
昭和5.7	10,000	全 1,087	天野吉藏
昭和5.10	5,000	全 199	早川政高
昭和3.3	3,000	全 10	大木龜吉
大正3.6	10,500	全 174・572	月見里久作

...

8 運輸交通

附電氣瓦斯

(1) 概説

清水港

清水港は駿河湾の西端に位し、三保半島からなる折戸湾を抱き、天然の良港として古くより交通の要衝となつてゐた。港内の水深29尺以上を有する水面122萬坪あり大小の船舶の碇泊に適してゐるが、第二期修築工事の完成の際には2ヶ所の繫船岸壁には2萬噸級2隻、8千噸級1隻、3千噸級4隻を同時に接岸し得、更に折戸湾内に3千噸級4隻を繫留し得るので、その際の當港の交通量運輸量の増加は思ふべしである(本文、總説「清水港の現状」参照)

今、昭和9年に於ける入港船舶を調べるに、汽船に於ては1萬噸級以上8隻、5千噸以上1萬噸以下77隻、千噸以上5千噸以下746隻、5百噸以上千噸以下93隻、5百噸以下100隻、計1,024隻、この登録噸数は2,473,312噸であり、帆船に於ては百噸以下5,272隻、この登録噸数130,074噸である

當港に旅客の定期航路としては昭和3年迄は東京汽船株式會社のものがあつたが、翌4年よりは不定期に寄港することになつた。貨物の定期航路としては朝鮮郵船株式會社と秋より冬にかけて北日本汽船株式會社の貨物定期航路がある。然して貨物の定期航路は今後急激に増加すると思はれるが、旅客に至つては陸路との聯絡上、尙多少の年月を必要とするであらう

入港する船舶の最も多いのは山下汽船、國際運輸、川崎汽船、勝田汽船、辰馬汽船、三井物産等であつて、夫々滿州、朝鮮、關東州、九州、北海道、沿海州等より大豆、雜穀、木材、石炭、鹽等を入れるのである。本港の最も特徴とするのは何と云つても茶の輸出で、5月上旬より10月末まで巨大船舶が輻輳することである。これらは日本郵船、大阪商船、ダラー汽船、アメリカンメールライン、ブルーファンネル、カナダ太平洋汽船、ビーオー汽船、バーバーライン及ロシアの汽船等で前記季節間には合計約162余隻の茶船が入港する

遠からず北海道、上海、大連、臺灣との間に定期航路が設けられんとしてゐる時、本港の運輸量は亦驚くべきものがあらう

鐵 道

本市に發着せる鐵道は東海道線のみで明治22年に江尻驛の設置を見、昭和9年12月清水驛と改稱されたのである。又旅客は取扱はざるも貨物運送のために清水港驛が明治40年に設けられた、次いで昭和5年2月1日より清水埠頭驛を開設して貨取扱及び一車積特種貨物の營業を開始せられた。清水港驛より清水埠頭驛間は0哩5分である、今昭和9年の乗降客又發着貨物を見るに、清水驛乗客599,906人降客508,849人計1,198,755人で、逐年増加を辿つてゐる、貨物は清水驛の發送434,323噸、到着56,292噸、清水港驛及清水埠頭驛の發送285,140噸、到着57,004噸、3驛の總計812,759噸であつて、その取扱高は静岡縣下の各驛の筆頭である

電氣鐵道及乗合自動車
本市内に布設された電氣鐵道は静岡電氣鐵道株式會社のもので、静岡市安西と本市間及本市と興津間の2線から成り市内布設路長は8.9哩である、昭和9年に於ける乗降客は乗客1,749,200人、降客1,782,229人、3,531,429人でこれ又逐年増加しつつある、又乗合自動車は静岡電鐵の經營に係る清水驛久能間、清水驛静岡間及清水驛興津間並に市内巡環線及び市内名所地行各路線と清水驛伊佐布間、清水驛杉山間及清水驛興津間とがある

(2) 道 路

年次	國 道		縣 道		市 道	
	路 線	延 長	路 線	延 長	路 線	延 長
昭和9年	1	3,921.81 [*]	8	17,580.00 [*]	901	216,508.09 [*]

(3) 諸 車

年次	荷 牛馬車	人力車	自轉車	自動車	荷 車	軌道人自 動		計
						力貨車	力貨車	
昭和9年	69	29	6,770	171	2,242	4	54	9,339
昭和8年	86	30	6,580	160	2,465	4	43	9,362
昭和7年	80	31	6,282	158	2,423	4	39	9,017

(4) 汽 車

年 次	驛 名	旅 客	
		乗 車	降 車
昭和9年	清 水	599,906 ^人	598,849 ^人
	清 水 港	—	—
	計	599,906	598,849
昭和8年	清 水	505,910	610,784
	清 水 港	—	—
	計	605,910	610,784
昭和7年	清 水	657,281	660,240
	清 水 港	—	—
	計	657,281	660,240

(5) 電 車

年 次	驛 名	旅 客	
		乗 車	降 車
昭和9年	清 水	1,749,200 ^人	1,782,229 ^人
昭和8年	全	1,510,422	1,549,820
昭和7年	全	1,219,646	1,242,904

(6) 船

年 次	汽 船	帆 船
昭和9年	17	13
昭和8年	17	12
昭和7年	17	10

備考 汽機船及ビ帆船ハ船鑑札

附 發着主要貨物品名

貨 物	車		發着主要貨物品名
	發 送	到 着	
434,323	56,292	發送	
285,140	37,004	木材、石炭、大豆、大豆油、柑橘、薪、野菜類、瓦、鮮魚、肥料、飼料、食鹽、米、大豆、穀、雜穀、セメント、パルプ	
719,463	93,296	酒類	
379,936	47,932	到着	
279,989	27,920	葉製品、米麥、石油、木材、砂糖、肥料、油類、鐵鋼及同製品、酒類	
659,875	75,852		
264,084	42,609		
252,857	20,208		
516,941	62,817		

附 發着主要貨物品名

貨 物	車		主發着貨物要品名
	發 送	到 着	
11,548	81	石炭、材木、鹽、肥料、	
9,838	70	鮮魚、雜穀、セメント	
6,936	323	再製茶等	

船 (船籍港清水市ノモノ)

小 船	計
517	547
898	927
913	940
規則ニヨルモノ	

(7) 外國貿易

年次	入港		出港		計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
昭和9年	340	1,347,434	340	1,347,434	680	2,694,868
昭和8年	289	1,212,507	289	1,212,507	578	2,425,014
昭和7年	233	1,031,887	233	1,031,887	466	2,063,774

(8) 入港船舶

船種別	船數	1萬噸以上	5千噸以上 1萬噸未満	千噸以上 5千噸未満	計
		登簿噸數	登簿噸數	登簿噸數	
汽船	8	100,203	77	746	1,798,908
帆船	—	—	—	—	—
備考 コノ内、外國貿易船 340隻 1,347,434噸					

(9) 内外國

年次	種別	汽船	
		船數	噸數
昭和9年	商船	1,007	2,435,092
	漁船	—	—
	避難船計	17	37,220
	計	1,024	2,473,312
昭和8年	商船	933	2,245,114
	漁船	—	—
	避難船計	24	25,598
	計	957	2,271,112
昭和7年	商船	882	2,108,940
	漁船	—	—
	避難船計	19	30,605
	計	901	2,139,545

出入船舶 (01)

輸	出	輸	入	超過	
				輸出	輸入
14,065,455	16,854,407	—	2,788,952	—	—
16,312,475	13,935,667	2,376,808	—	—	—
11,625,451	11,784,017	—	—	—	158,566

噸數階級別 (昭和9年)

5百噸以上 千噸未満	百噸以上 5百噸未満	百噸未満	計
93	21	79	1,024
68,147	6,650	1,002	2,473,312
—	—	5,272	5,272
—	—	130,074	130,074
内國貿易船 605隻 1,124,876噸			

船入港

帆	船		計	
	船數	噸數	船數	噸數
2,393	49,330	3,400	2,485,422	
2,879	80,744	2,879	80,744	
—	—	17	37,220	
5,272	130,074	6,296	2,603,386	
2,411	43,841	3,344	—	
2,901	89,726	2,901	—	
—	—	24	—	
5,312	123,567	6,269	2,394,679	
1,229	47,752	2,111	2,156,692	
2,832	73,049	2,882	73,049	
—	—	19	30,605	
4,111	120,801	5,012	2,260,346	

(10) 通 信 入 出

年次	郵便局数	電 話		通 常 郵 便		
		共 用	専 用	引	受	配 達
昭和9年	7	20	1,562	2,896,340		4,225,474
昭和8年	7	20	1,233	2,977,953		3,796,660
昭和7年	7	14	1,206	2,560,399		3,368,773

(11) 電

1 電

年次	配電線路長	配電線延長	電柱数
昭和9年	113.32	317.30	2,365
昭和8年	111.36	707.30	2,271
昭和7年	95.91	744.67	2,161

2 電

年次	馬 力 = ヨ ル モ ノ		
	馬 力	臺 数	使用戸数
昭和9年	1943.585	294	268
昭和8年	3,553	776	755
昭和7年	3,367	794	684

3 瓦

年次	瓦斯管延長	燈 火 引 用	
		戸 数	燈 数
昭和9年	66,916	70	80
昭和8年	66,994	51	62
昭和6年	66,821	44	53

信

小 包 郵 便			電 信 (内外共)		
引	受	配 達	引	受	配 達
	39,758	53,832	75,166		106,945
	33,054	52,616	77,366		907,262
	36,023	50,390	69,106		102,470

電

燈

點 燈 戸 数	燈 数	供 給 會 社 名
12,353	31,961	東京電燈株式會社
13,225	41,860	全
13,697	51,269	全

力

「キログワット」ニヨルモノ			供 給 會 社 名
キログワット	使用戸数		
1,494	14	東京電燈株式會社	
910	3	全	
1,549	6	全	

斯

燃 料 引 用			供 給 會 社 名
戸 数	燈 数		
1,486	2,526	清水瓦斯株式會社	
1,555	2,390	全	
1,547	2,341	全	

9 附

(1) 市の歳入歳出

年次	歳入	歳出		
		経常	臨時	計
昭和10年豫算	927.130	441.736	485.394	927.130
昭和9年豫算	671.473	406.458	265.015	671.473
昭和8年豫算	687.063	383.951	303.112	687.063
昭和7年豫算	805.441	390.736	414.705	805.441

(2) 諸税附

年次	直接国税			間接国税		
	税額	1戸平均	1人平均	税額	1戸平均	1人平均
昭和9年	229,877	18.63	3.64	825,482	66.88	13.07
昭和8年	218,241	17.95	3.54	737,752	60.69	11.96
昭和7年	195,122	16.58	3.22	596,934	50.73	9.85

(3) 職業紹介

年次	所数	求人者数			求職者数		
		男	女	計	男	女	計
昭和9年	1	3,636	1,581	5,217	3,849	984	4,833
昭和8年	1	4,994	1,867	6,861	5,682	1,335	7,017
昭和7年	1	4,561	1,546	6,107	5,549	1,298	6,847

(4) 清水市

年次	勸業奨励費	産業調査費	實業視察費
昭和10年	2,760	354	100
昭和9年	2,010	354	100
昭和8年	2,010	270	100
昭和7年	1,900	277	200

支那(人) (録) (第1) (第2) (第3) (第4) (第5) (第6) (第7) (第8) (第9) (第10) (第11) (第12) (第13) (第14) (第15) (第16) (第17) (第18) (第19) (第20) (第21) (第22) (第23) (第24) (第25) (第26) (第27) (第28) (第29) (第30) (第31) (第32) (第33) (第34) (第35) (第36) (第37) (第38) (第39) (第40) (第41) (第42) (第43) (第44) (第45) (第46) (第47) (第48) (第49) (第50) (第51) (第52) (第53) (第54) (第55) (第56) (第57) (第58) (第59) (第60) (第61) (第62) (第63) (第64) (第65) (第66) (第67) (第68) (第69) (第70) (第71) (第72) (第73) (第74) (第75) (第76) (第77) (第78) (第79) (第80) (第81) (第82) (第83) (第84) (第85) (第86) (第87) (第88) (第89) (第90) (第91) (第92) (第93) (第94) (第95) (第96) (第97) (第98) (第99) (第100)

財政

現在戸数1戸平均		現在人口1人平均額	
歳出	歳入	歳出	歳入
74.31	74.31	14.68	14.68
55.24	55.24	10.83	10.83
58.39	58.39	11.34	11.34
70.30	70.30	13.60	13.60

清 總 額

縣 税			市 税			計		
税額	1戸平均	1人平均	税額	1戸平均	1人平均	税額	1戸平均	1人平均
249,648	20.23	3.95	431,334	34.95	6.53	1,736,341	140.69	27.50
252,692	20.79	4.10	345,891	28.45	5.61	1,554,576	127.88	25.20
211,643	17.98	3.49	325,146	27.64	5.37	1,328,845	112.93	21.93

介 所 成 績

再 來 者 数			紹 介 者 数			就 職 者 数		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
1,527	369	1,896	2,950	744	3,694	2,511	503	3,014
1,326	316	1,642	4,494	977	5,471	3,169	720	3,889
1,366	456	1,822	3,955	930	4,885	3,231	720	3,951

勸 業 諸 費

氣象警報費	防疫費	度量衡取締費	計
255	36	533	4,038
264	36	366	3,130
188	36	465	3,069
188	40	589	3,294

(5) 清水港収入(關稅、噸稅、諸收入)比較表

年次	關稅	噸稅	諸收入	計
昭和9年	156.063	76.093	13.246	245.402
昭和8年	215.351	63.908	4.200	283.459
昭和7年	286.834	67.212	12.377	366.423

(6) 度量衡(昭和9年)

種別	検査成績			營業者數	
	受檢總個數	犯則器數	百分比	種類	戸數
度量衡器	2,004	156	7.7	度量衡器	5
量器	4,388	109	2.5	計量器	9
衡器	15,722	359	2.3	度量衡器、計量器	2
計	22,114	624	2.8	特種販賣者	9
				計	25

「メートル」法宣傳施設としては(1)宣傳ビラの配布(2)「メートル」商品の販賣(3)換算紙の配布(4)物件の「メートル」表示(5)身長體重の測定等である

(7) 縣下四市市勢比較表(昭和9年)

市	面積	人口	生産總額	全1人當	市財政	全1人當
清水市	1.685	63,139	27,685,474	438	671,473	10.63
静岡市	9.589	191,005	53,647,002	281	3,134,624	16.41
濱松市	0.950	122,297	51,634,953	422	1,224,899	10.02
沼津市	0.883	47,960	9,716,517	203	625,808	13.05

全指數比較表

市	面積	人口	生産總額	全1人當	市財政	全1人當
清水市	100	100	100	100	100	100
静岡市	569	303	194	64	467	154
濱松市	56	194	187	96	182	96
沼津市	52	76	35	46	93	124

備考 四市市制施行時

静岡市	濱松市	沼津市	清水市
明治22年	明治42年	大正12年	大正13年

公共及實業團體

名稱	所在地	電話番号
清水商工會議所	辻	1.180
清水市農會	市役所内	300
清水市水産會	市役所内	300
庵原郡實業團體事務所	江尻	618
庵原郡清水市柑橘同業組合	庵原郡實業團體事務所内	全
庵原郡清水市茶業組合		
庵原郡清水市木炭同業組合		
清水市庵原郡柑橘商同業組合	辻	779
日本柑橘北米輸出同業組合	辻	930
中駿畜産組合	庵原郡實業團體事務所内	618
江尻町漁業組合	江尻	—

ば汗牛充棟たるならぬ富士の歌句は、殆どその半ばをこの清見潟に集中されてゐる有様だからである

清見潟の名はいま吾人の贅言を要せず、普く人々の耳に親しいものだが、筆を遡める都合上、高山樗牛の「清見潟日記」から引いてみるならば「薩埵の岬のあなた、興津川の口より袖師、江尻の長汀をこめて清見潟とぞいふなる」とある

〔註、薩埵の岬——興津の東外れ、昔は箱根につぐ難所といはれたところ

袖師——興津町、清水市との間に横たはる、海濱の村落、海水浴場として聞えてゐる

江尻——清水市の一部、東海道五十三次の内の一驛〕

これを更に別な言葉に翻譯するならば、諸君がコンパスの中心をわが清水市におき、半経約數哩の圓周を陸地に畫いて見給へ、如上の地を初めにして三保松原有度山々、久能山附近等が含まれるのだが、これ等の地一帯とそれに沿ふて展開される蒼海一圓を清見潟といふのである

「……………三保の入江おぼろにけふりて、有度山かげやうやうにうすれゆく頃雲いろいろの夕暮の空にながめりて、われや行方もしらぬ思ひに幾たびか立ちつくしけむ、夜静かにして磯打つ波のかすかに間遠うなるにつれ、わが胸のあへぐが如きこそあやしかりけれ、われはこのあやしき默思を友として三月あまりを夢に暮しき、げにあはれにもまた樂しき夢なりき……………」(樗牛、清見潟日記)

樗牛が如何にこの清見潟を熱愛したかは、幾多の文章に現はれてゐるが、當時「太陽」誌上に盛んに海に關する論文を出してゐたが、これらの奇詭な文章は皆彼が病を養ふてゐた興津一碧樓の離れ座敷で日夜清見潟の海の色を眺めつゝ出来たものだ

清見潟の海の風光、そは飽くまで柔順、滯滯、空濶、いかに古來より騷人雅客の心魂を開拓したことか

正岡子規は深く此地を愛し「林檎食ふて牡丹の前に死なんかな」の句を作つた後、更に又數年の壽を保ち、愈々死期の近づくのを知つては、口癖のように、興津でかの大海を望んで死にたいと云つてゐた

諸君は又、かの結構遠大なる大衆小説「兒雷也物語」が實にこの清見潟一帯を取り入れることにより、俄然、一新天地を展開したことを知つてゐるか

馬琴の後を繼ぐといはれた柳下亭種清は屢々東海道を旅行し、たまたま薩埵岬より清見潟一帯の絶景をみて深く感した、之を舞臺にして雄壯なロマンスを描いたなら、といふ考へが油然として湧き、かの兒雷也物語を書いたといはれてゐる

元來、兒雷也のモデルは信濃、越後の山間に實在したのだが、突如として駿河の大海戦を捕へきたつたのはこれが動機といはれてゐる

かくの如く清水市近郊が近世の小説舞臺の舞臺にのぼり、文人墨客の友となつたことは數が多く、就中巷間に知れ渡つてゐるのは十返舎一九の「膝栗毛」であらう「膝栗毛」ほど東海道の地理風俗を描き盡したものはなく「膝栗毛」ほど當時の世態人情を寫しきつたものはない、こは決して滑稽小説として葬るには餘りにも貴重な文獻である

當市江尻は五十三驛の一として港の清水と共に古くより知られてゐた、江尻、辻の兩町は今でこそモダンな裝飾に夜もなほ晝の如く明るいのだが、然しどことなく古い宿場の懐しい色を深はせてゐる、兩側に軒を連ねた商家には三百年の傳統を現はす何かがある、辻町を外れるともう、あの懐い街道の松並木がある

この江尻の外れ、今の辻町のあたりの茶店に入つてわが彌次郎兵衛と喜多八の兩君は、俄雨をさけながら黄粉團子をばくついたのであるが、それは黄粉と見せかけて實は練をつけたものだつた、やがて雨が霽れて江尻に入り、馬子と客との愉快なやりとりの話をきながら「大に興に入り、歩むともなしに府中の宿に着き」「金子の才覺調ひて……………今宵は聞き及びし安倍川町へしけこまん」と勇み出したことが、面白可笑しく書いてある

こゝに面白いことには作者が兩人とも駿河の人間にしてゐることで、彌次郎兵衛は府中(静岡)喜多八は實にわが江尻の人間であつた

次に畫家は清水をいかに描いたかを思ふとき、吾人は先づ初代廣重を擧げねばならない、彼は數度、東海道を往來し、特に清見潟の長汀曲浦はその畫紙に寫實の奥妙を描寫してゐる、彼の版畫の中、江尻や三保松原等の畫はその數七十に垂んとしてゐて、彼がこの地を紹介せんとする努力はその當時は勿論、後世に到つても鮮やかに刻銘されてゐる、現代に於ては巨匠和田英作畫伯が屢々畫架を携へて來遊されるので有名である

當市近郊の紹介は筆者の拙筆を以てしても尙盡きることを知らない、即ち大清水パノラマを形成する名勝勝地は改めて稿を起すとして、最後に徳富蘇峰學人の詩を紹介し、危く蛇尾に終るのを免れたい

日月雲烟往又還 青霄縹渺是仙寰

名山不作不平色 白髮昂然天地間

この蘇峰がこの地を愛するのあまり、大正十三年自ら碑を市内杉原山に建てて彫つた詩である

三保の松原

「風早の三保の浦曲を漕ぐ舟の……」と謡曲羽衣によつて、その心にくい傳説を普く知られてゐる羽衣の松のあるところとして、三保の松原は古くより著名である

三保は市の東南に斗出する一大沙洲にあり、大正七年實業之日本社撰するところの新日本三景に三保の松原は加へられ、越えて十一年三月内務大臣より名勝地として指定せられた、今更吾人の贅言を待たずとも、その風光の美は市井幼童の口にするとところである

清見海不二の烟や消えぬらん月影みかく三保の浦風 鳥羽院
清見海磯山もとは暮れそめて入日のこれる三保の松原 藤原家隆
立琴や三種の松原それながら 藤 太
春の夜の三保の松原烟立つ 子 規

三保の松原の特色は何といてもその海岸線の闊く長く、且つ坦々たるところにあらう、一つの巖をとどめず、些の屈折も見なく、三哩の長きに亘つてゆるやかな線を描いてゐる、この海の線に對して空を限るものは、何ものにも遮ぎられずに立ち並んだ數百年の松の緑だ、或は高く或は低く、直なるもの曲れるもの、その氣色窈窕として三千の美姫思ひ思ひに歌舞するに似てゐる

然し三保を語つて富士を論ぜずんば、龍を描いて眼を點ぜざるに等しい、げに三保の松原より眺める富士の秀麗こそ王者の中の王者だ

富士が根はつきるものなし久方の天ゆ傾きて海にいたるまで

島木 赤彦

この歌の示すやうな富士は三保でなければ見られない

羽衣の松は松原の南濱にその巨枝を伸べてゐる、一に衣掛の松とも云ひ、漁夫伯梁のために舞曲を演じた天女がその羽衣を掛けたといふ傳説はよく人口に膾炙されてゐる、この傳説を詳述した享和の古碑「羽衣天女之碑」(明治四十四年再建)が樹下に立つてゐる

有度濱に天の羽衣昔着て振けむ袖や今日の羽振子

能因法師

世にしらの眺めなればや天人の天降りにし三保の松原

鳥丸光廣

この松より六町の東南に縣社御穂神社があり、大己貴命、御穂津姫命を祀つてゐる、その創建は極めて古く、或人は神代に既にその存在を見たといふ、然して景行天皇以前に既に存在してゐたことは「日本總國風土記」に日本武尊が東征の際當社に詣つて圭田五百畝を獻じたといふことに依つても知ることが出来る、兎も角、延喜式内の古社であり、寛文八年炎上以前のもは(家康公造營)丹碧の美を極め、本社、拜殿、廻廊等現在の靜岡淺間神社に匹ふ程の壯觀を呈したものといはれてゐる、什寶としては大正十年國寶に指定せられた鈴木三郎重家の帶せし無銘糸巻の大刀、天女の羽衣の切端等がある

三保は又好適の海水浴場として有名で、夏ともなれば都人士は陸續とやつてくる、海水浴場に隣接して二つの飛行場があり、東京大森との間に定期の旅客輸送がある

大俠次郎長の墓

東都の講義師神田伯山が「清水の次郎長」を読み續けると、十町四方の他の寄席はがら空きになるといふ、まこと次郎長は一清水の俠客たるには餘りに大きく全日本を代表する快男子であつた

次郎長、本名は山本長五郎といひ文政三年正月元旦、清水美濃輪船乗三右衛門の子として生れ、幼少より米穀商次郎八の許に養子となつた、次郎八の家の長五郎といふところより、人呼んで次郎長といつた、臆白小僧の彼はもとより米屋に甘んずる筈はない、少年の頃より諸所を流浪し、俠客なる修業を積んだのであつた、然し講談映画芝居等に於てはたゞ彼は華やかな博徒の親分に祭り上げてゐるが、彼は一介の俠客たるべく餘りにも先見發明に富んだ當時の新人だつた

明治初年、未だ人が蒸汽船を嫌つてゐる時、彼は清水の廻船問屋を歩き廻つて蒸汽船を來させて、他日開港場となる基礎を作つた、同じく三年には江戸から英語教師を伴つてきて、地方青年に開眼を促した、或は又我邦の囚人が徒らに閉閉されて何等生産的事業にたづきはらないのを悲み、自ら進んで多くの囚人を貰ひ

受け富士の裾野の荒野をを開墾した、とまれ彼は當時の新人だつた

又如何に彼が陛下の忠良なる臣下であつたかを示す例は、物情騒然たる明治維新の際、乾分一千人を率ひて伏谷判事の下知の下に駿遠三、三ヶ國の治安維持につとめた事を以つても知られる

市内港橋の東二町巴川に添うたところに一幹の古松があり、その根本に次郎長が建て、山岡鐵舟が題字を書いた「壯士の墓」といふものがある、時は明治元年九月のことである、幕府の軍艦成臨丸が颶風の爲に清水港に漂流した時官軍は之を襲撃し成臨丸を捕獲し、艦員の死屍を投棄した、海には幕兵の死屍が数日の間浮き漂うてゐたが、後難を恐れて誰一人それに手を觸れるものがなかつた、それを見て奮然と起つたのが次郎長である、彼は大勢の乾分を指揮して自ら小舟に乗り海に漂うた屍体を一つ残らず片附けて之を巴川畔の古松の下に集めて厚く葬つた、人々は禍の及ぶを憂へた時「官軍も幕軍もどちらも國家のために働いてゐるに變りがない、而も死すれば皆佛だ、もしこの人達の死骸を葬つた爲に御咎があるならば自分の一命を差し出して申譯を立てる」と彼は莞爾として答へたのであつた、げに彼の全貌を蔽ふものは膽そのもの意氣そのものであらう

このことが山岡鐵舟の耳に入り二人は忽ち意氣相投じ、莫逆の友となつた、鐵舟が鐵舟寺を建立するのに次郎長も與つて力があつた、彼の名が次第に現はれるや軍神廣瀬中佐や小笠原長生子か其候補生時代屢々彼を訪れて話を聞くのを喜んだことは有名であつた

或時、鐵舟はその雄渾の文字を奮つて「精神満腹」といふ額を送つた「鐵舟先生から度胸免狀を貰つた」といつて次郎長はどの位喜んだか判らない、まこと世態浮薄、精神空腹を訴へるの時、この文字の暗示するところ深きものがあらう

斯くの如く彼は多くの逸話を残しつゝ明治廿六年六月十二日七十四歳の天壽を完うして逝つた、墓は下清水の禪刹梅蔭寺にあり、墓銘は時の海軍大臣榎本武揚の筆である、その隣りに彼の妻てうの墓及び「清水港は鬼よりこはい、大政、小政の撃がする」で有名な、乾分大政、小政及び仙右衛門の墓が並んでゐる、又近年彼を敬慕する同志相築り、境内に銅像を立てた、次郎長は床几に腰をかけ右足を前に出し、先方をにらむやうに見てゐるのだが、体軀あくまで魁偉、風貌凡ならざるに驚くものがある、とまれ梅蔭寺は清水名所の尤なるものになつた

妙音寺區の風光

清水の名勝といへば誰も先づ龍華寺、鐵舟寺に指を屈せざるを得ない、これらは市内妙音寺區に約一町を隔てた近きに隣接し、共に其風光絶佳なるを知られてゐる、その昔、僧行基、當國を巡錫し、補陀落山久能寺を建立した際、同時に當市矢部の地に妙音寺を創建し久能寺に屬せしめた、蓋し鐵舟寺、龍華寺のある一帯を妙音寺區と稱するはそれによるのである

中世の僧傑、雪舟和尚、明の皇帝に謁見の際、日本第一の絶景を問はれたが、彼は直ちにこの地、妙音寺區を擧げて答へたことは著く知られた逸話である、詩人村松晩村の詩に、彼の友備前人服部洪齋の言葉がのつてゐるが、それによると彼は偏く天下を周遊したが「奥之松島、丹之橋立、藝之宮島」は壯麗時異喜ぶべきものがあるが、「山意水情鼓舞人心者」無く、これらは三奇と謂ふべきも三景とは謂はれない、自分の見るところによると「則駿之龍華寺實天下第一絶觀也」と感嘆之を久しうしてゐる

若し夫れ、鐵舟寺、龍華寺の上より清水港を俯瞰せんか、人は眼前の大パノラマの美に酔ひ、造化の妙に魂を奪はれるだらう、左手には白皚々たる富岳が女神の如き温容を見せ、遠く函嶺、愛鷹、近くは藤埜、興津の山々をその裾に従へてゐる、畫面の右は三保の白砂青松碧水に浮遊し、渺茫たる伊豆半島の遠景に相對して駿河灣を二つに限つてゐる、この双眸に映する江灣風趣は宛然一幅の畫圖であり「吟杖一處到らば百憂頓に消え、遊履先づ踏んで萬感忽ち生ずる」の形容もまた必ずしも誇張ではない

鐵舟寺

鐵舟寺は臨濟宗の名刹である、補陀落山久能寺の廢寺となつたのを悲み、明治十六年山岡鐵舟居士が再興したものである

なみだのみ かきくらさるゝ旅なれや さやかに見よと月はずめども

西行

この歌は旅人西行が諸所を流浪した際、當寺が久能にあつた頃訪れ「久能の山寺にて月をみて」と題して詠んだものだ、本尊は家康の持念佛だつたといふ愛染明王である、久能寺所屬の堂宇、佛像、經卷、什寶の遺存せるものを擧げて繼承したが、就中、待賢門院御筆の法華經舊西入道筆の觀音菩薩行經は國寶に指定せられ、又明治天皇御祭服一領昭憲皇太后御手袋をも秘藏してゐる、由來この寺は

高僧傑士の出たことを以て有名であり、かの聖一國師もその出身である

龍華寺

龍華寺は、鐵舟寺の南隣にあり、日蓮宗に屬し寛文十年甲斐本遠寺第四世日近大僧都の創立に係り、十界曼荼羅を本尊としてゐる、傳ふところによると開山上人は紀州額宜卿の御生母おまんの方の甥だといふ

什寶としては、龍華寺と題せる東山天皇の第五皇子御染筆の勅額、東山天皇の神鏡、雪舟の十二畫幅、晋の玉筵之筆集字等がある、又當寺にはひろく宇内に誇るものが二つある、一つは二坪に餘る仙人掌(サボテン)や四坪の廣さを有する大蘇鐵で、勿論日本一のものだ、皆天然記念物として内務大臣の指定を受けてゐる

他の一つは明治の文豪高山樗牛の墓である、彼の有名な標語「吾人は須く現代を超越せざるべからず」と刻んだ大理石の墓は庭内眺めよきところにあり、最近彼の銅像が同じ場所に建てられた、樗牛は清見海一帶の風光を愛し、久しく興津に病を養ふたことは前述せる如くであり、龍華寺に彼を葬つたのはその遺言に基づくのである

日本平

日本平は當市有度山の頂上を云ひ、海拔三百十米、龍華寺道路南端より自動車登山道路あり約一里十五丁で頂上に達することが出来る、又草薙驛よりも登山道があり頂上まで約一里弱である、こゝは日本武尊御東征舊蹟十四ヶ所の一である、長くも尊がこの頂上に登つて四方を眺め給ふたといふ、近時その展望の廣濶なること内外に響き渡り、かの大毎、東日の選んだ日本百景の一に数へられたことは著く知られてゐる

南は洋々たる太平洋を望み、東には愛鷹、箱根、天城の諸山指呼の間に連亘し富士はその間、王者の如く聳へ駿河灣は宛ら伊豆半島に抱擁せられて庭池の如く西は用宗の奇蹟大崩より安倍兼頼の諸川を望み、静岡、清水兩市は勿論、興津、岩淵等は脚下に羅布してゐる

又九十九折の斷崖を南降すれば久能山東照宮に出る、更に晴天を惠まれる時は或は遠州御前崎が潮波の中に見え、或は遠く甲州の連峰波の如くに起伏するを樂み、まこと造化の妙に感嘆せざるを得ぬ宇内の大觀だ、こゝを以て鐵道省は近年東海道隨一の眺望として大に宣傳し、老幼婦女子と雖も四季折々の風光を樂むべく登攀する、又よく外人が清水港碇泊の時間を利用して登るのを見受けるのだが

如何に廣くその風光の雄大を愛せられてゐるか判ると思ふ

山麓に縣社草薙神社がある、日本武尊が賊に火を放たれて叢雲の劍を脱いで草を薙いだといふ傳説のある處で、景行天皇東國御巡幸の際親しく日本武尊を祭られたものである

境内は杉、檜、松等の老樹につままれ、門前の東には柳ヶ澤の流れがあり、如何にも鬱乎森嚴である、特にこゝの名物とされてゐるものは大楠樹であつて、現在では幹は朽ち果て、僅に外皮を残すのみだが、然し枝葉は蒼々と繁茂してゐるこの神木の周圍一丈八尺、高さ八丈二尺餘、樹齡測り知る可からざる珍しい老樹である、駿國雜誌にこの樹の空洞の中で三間柄の鉤を自由自在に使ふことが出来ると書いてある

久能山

家康が鯛の天ぷらを、而も大きい奴を一度に二枚もペロリと平げた爲めに、元和二年四月十七日駿府城内に死んだことは有名である、彼は激しい胃痙攣の苦痛の中にありながらも、よくいろいろと後事を策し、特に本多正純等を召して「我が死後は久能山に葬つて神と崇め、三年の内に下野國日光山に改葬すべし」と命じた、翌々十九日夜、榊原照久は遺命に依つて自ら齋主となり、久能城本丸の趾に家康の遺骸を埋葬し、直ちに社殿造營の事業が開始され、翌四年十二月八日に至つて善美を盡した靈廟が完成した、かくて臣下としては唯一の宮號を賜り、別格官幣社東照宮と稱せられた

東より照す光のこゝにありてけふもうでする久能のみやしる、徳川家光、清水より駿河灣の海濱に沿ふてゆくこと二里にして、當山は海岸間近に屹立してゐる、こゝは全然一個の岩石より成り、削り成す石礎は繞り圍つて實に千百五十九を數へ、下から仰げば宛然算盤を斜に立て並べたようである、而もところどころに山門があつて如何にも水滸傳に見える山岩そのまゝである、海拔二百八十米の頂上には一萬六千五百餘坪の平地があつて、家康の靈廟を初め華麗典雅なる樓門、本殿、拜殿、唐門、神樂殿がある、皆所謂權現造の粹を極め、特別保護建造物となつてゐる

寶物として見るべきもの數を知らず、中にも大臣門に掲げられたる勅額と拜殿に於ける三十六歌仙の額とは何れも後水尾天皇の宸翰に屬し、その他東照宮遺品の三池の太刀を初め、太刀、脇差等の國寶に指定せられたるもの十五品の多きに達してゐる、又別に寶物館を設け、東照公の眞蹟、遺愛品、夥しき太刀甲冑等を陳列し、一般の觀覽に供してゐる

時は人皇三十四代推古天皇の御宇、太政大臣尊良の次男、久能忠仁公がこの山に堂宇を構え久能寺と稱し、圓浮壇金五寸餘の千手觀音を安置した、これが鐵舟寺の前身であつたことは、その項で述べた、當時に於ける久能寺の勢力は素晴らしいものであつて、一時は僧舎三百六十坊、衆坊一千五百人と稱せられたが、嘉祿年間山火に罹つた

その後武田信玄が駿河を畧し、この山の險要を見て築城なし、今福丹波守をして據らしめたのだが、天正年間、丹波守が家康に降つてより徳川氏の有と歸した傳ふところによると、武田氏の時初めてこゝを發見したのは山本勘介であるとなし(不思議にも山上には井戸があり、これを勘助井戸と呼んでゐる)糧食さへあれば百夫能く十萬の敵に對して幾年でも支へることが出来、殊にこゝは他と全く離れて、前方海岸側より以外に攀ち登る場所がないといふ、天下絶無の險害の地である、政畧的の家康が如何に此地を愛したかは想像に難くない、生前しばしば登攀遊覽して手づから植木等を植えたりした、眺望の壯、輪奐の美、吾人は未だこの神社に優る神社あるを聞かない

格咲く久能の御坂の七曲り曲りて來ればききす鳴くなり 落合直文

興津

當市域を北に離れて袖師海岸をすぎ、波多打川を渡れば興津に入る、興津は人も知る東海道五十三次の一、町は一筋の帯の如く、山に倚り海に臨み、三保松原の白砂青松を呼ばば應へんとするところに眺め、古來風光の絶佳は時に歌に盡きるところを知らない、加ふるに氣候の溫暖、海岸の風趣は東海道有数と謳はれ、西岡寺公の座漁莊、井上侯の別邸を初め名士の別莊が多く、夏ともなれば近縣から海水浴客が押しかける

興津の清見寺か、清見寺の興津か、と云はれるほど清見寺は餘りにも有名である、寺號を巨龜山清見興國禪寺と稱し、京都妙心寺派に屬する東海隨一の巨刹である、その創建は遠く千數百年前、天武天皇の御宇に溯り、當時の本尊は觀音菩薩であつたといふ、偶々足利氏の戦亂に遇ひ、悉く兵燹に罹つて灰燼に歸したが足利尊氏は痛く之を受へ、再び當寺を造營し、興國の二字を寺號に加へて關東十刹の一に列せしめたのである、今、客殿には彼の座像が安置されてある

天正、應長の頃、住持大輝和尚は豊臣秀吉、徳川家康の知遇を得、その資助によつて大に殿堂の修築をなし、今日誰しも驚くところの大伽藍の基礎を造つたのである

きよみ寺ゆくてにうつる花の色いくほどもなくもみぢしにけり 豊臣秀吉

この歌は天正十八年、秀吉が關東征伐に赴く途次、當寺に宿泊したが余りにも景色が佳いのが心にかなつて、五六日逗留した時詠んだものである

家康も又朱印二百石を當寺に附した、現在の本尊釋迦牟尼如來は彼の女靜照院の寄附に係るものといふ

明治天皇御東幸に際し、長くも聖駕を當山に托げさせられたことは有名であり爾來、英昭、昭憲兩皇太后、大正天皇、皇太后陛下の行幸啓を抑ぎ、當寺の光榮は多いのである

寺寶としては今川、武田兩家の古文書、楠正成所藏の梵字見台、辨慶の書いたといふ大盤若經、利久の涙の茶杓、清見ヶ關の遺物等あり、これらは寺僧に乞へば心置きなく見せてくれる

さやかなる名をばとゞめて清見湯かたぶく月に關守ぞなき 中臣祐殖

往古、清見ヶ關のあつた場所は現在の清見寺の門前だつたといふが、今は廢滅してその影をとゞめない、僅に關屋の里といふ名稱がその附近にある、然しこの關所の草創は極めて古く、天武天皇の白鳳年間に設けられたものといふ

終りに讀者はかの有名な興津たいの名を思ひ出すだらう

このあたりもみぢめづらし興津鯛 馬 琴

内侍所奉安の遺蹟

慶應が明治となり、江戸が東京と改められ、國を擧げて更新の歡喜に渦巻いてゐる九月廿日、鳳輦は駘々と京都を發して東へと進み、翌月五日、長くも江尻宿(現當市江尻)に御駐泊せさせ給ふた

今當時の古蹟を尋ねると、當江尻魚町、寺尾興右衛門方を行在所と定め、三種の神器を奉齎せる内侍所の鳳輦は、別に假殿舎を魚町稻荷神社境内に造營し奉安した、この夜の町民の光榮歡喜は譬へるものもなく、徹夜篝火を焚いて御警衛申上げたといふ

其後この殿舎は稻荷神社へ下賜せられ、保存せられてゐるが、今般、聖上陛下當市御臨幸を記念し、この意義深き明治年間の遺跡は往時の元形のまゝ、同神社に保存せらるべく、諸種修繕工事を起し、先般盛大に落成式が舉行された

かくてこの魚町稻荷は清水市名所の尤なるものとなつたのだが、この稻荷神社は武田信玄が當地に小芝城を築いたとき、勸請して祀つたものである

小芝城趾

小芝城の趾は市内江尻小芝の地にある、縣道北街道に沿ひ、巴川に臨む一帶の

丘を云ふのだが、現在では往昔の旺んな經營を偲ぶ跡はない

武田三代記に依ると、永祿十二年信玄が馬場美濃守に命じて地を相せしめ、今福和泉守を奉行として築城せしめたものである、武田氏亡んだ後は徳川氏に屬し家康亦甲州よりの歸途この城に滯泊したことが家忠日記にあり、戰國時代には幾多の將星が去來し、地勢亦頗る要衝、當時は非常に重大な役割を演じた城である

筆者はあたかも通りすぎの旅人のように、清水近郊の一帶を一瞥してきたのだが、之等の外に海水浴場として名高い袖師ヶ浦、清水の寶塚とも云はれる狐ヶ崎遊園地、梶原景時一族が最後を遂げたといふ古蹟、淨瑠璃「朝顔日記」の女主人公朝顔こと秋月の娘深雪の墓があるといふ法岸寺、其他史實の興趣そゞろに湧く神社佛閣は尙十指を屈するに余るのだが、限られたる紙数は之等幾多の名勝舊蹟の叙述を割愛しなければならない

清水近郊案内

(清水驛よりの里程及自動車賃金表)

行先名	里	程	貨賃	切金	乗賃	合金	所時	要間
鐵舟寺	4.687	1.07	.80	.20	.20	20		
龍華寺	4.596	1.08	.80	.20	.20	20		
日本平	7.848	2.00	2.00	—	—	50		
次郎長の墓	2.507	.23	.50	.10	.10	15		
羽衣の松	8.293	2.05	2.00	.30	.30	40		
御穂神社	7.848	2.00	2.00	.30	.30	40		
清水燈臺	8.938	2.10	2.00	—	—	50		
久能山	9.810	2.18	2.00	.35	.35	40		
三保飛行場	9.047	2.11	2.00	—	—	50		
三保海水浴場	9.265	2.13	2.00	—	—	50		
狐ヶ崎遊園地	3.924	1.00	.80	.10	.10	25		
美濃輪稻荷神社	2.180	.20	.50	.10	.10	10		

清水及江尻三保間渡船賃

江尻波止場三保本村間	片道	10錢	往復	15錢
清水波止場三保本村間	同	10錢	同	同
清水波止場貝島塚間	同	10錢	同	同
清水港橋折戸駒越間	同	10錢	同	同
清水松井町三保辨天間	同	5錢	同	10錢

昭和十年十月二十五日印刷
昭和十年十一月一日發行

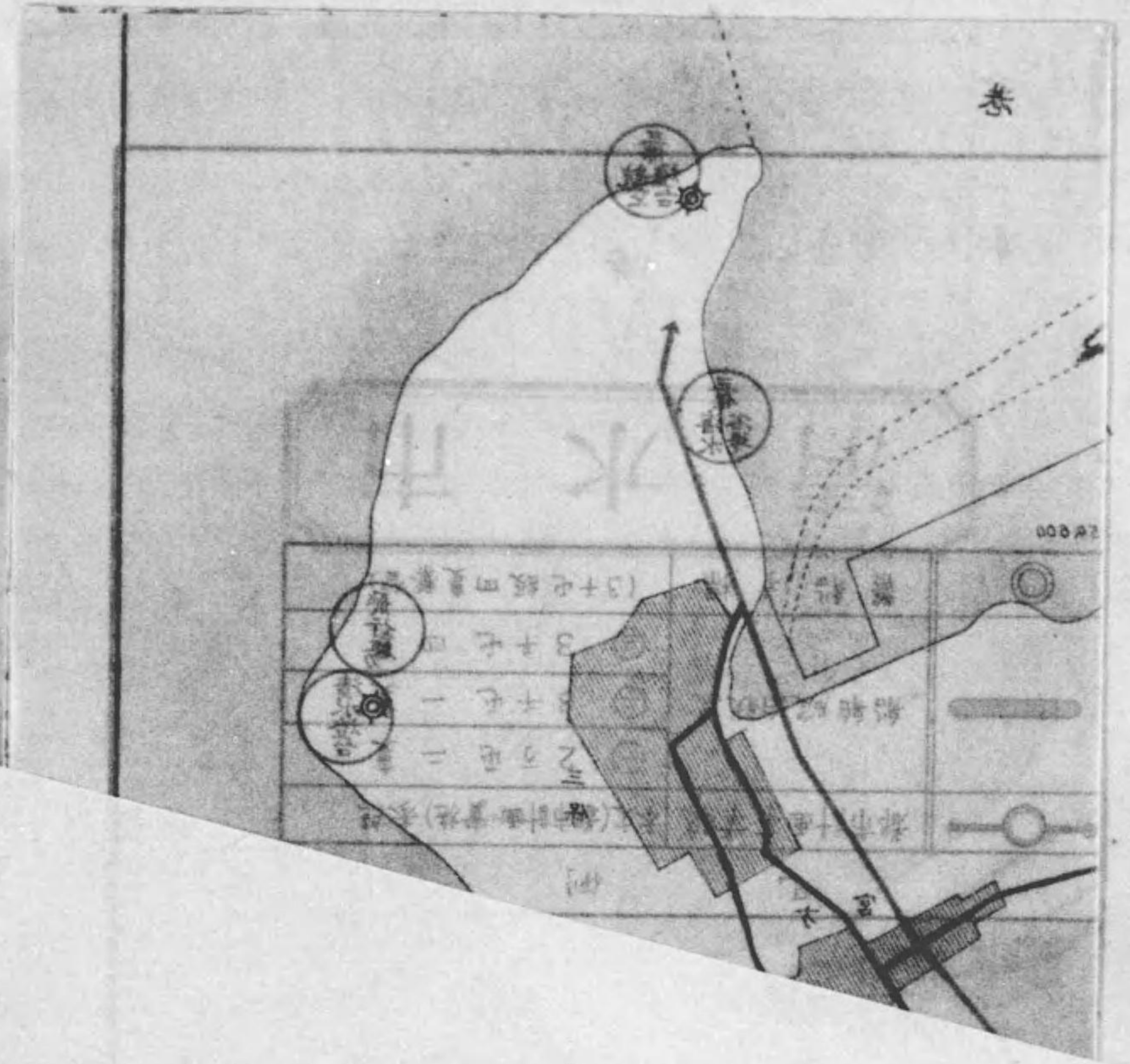
清水市役所

清水市清水三八六
印刷人 西貝眞吉

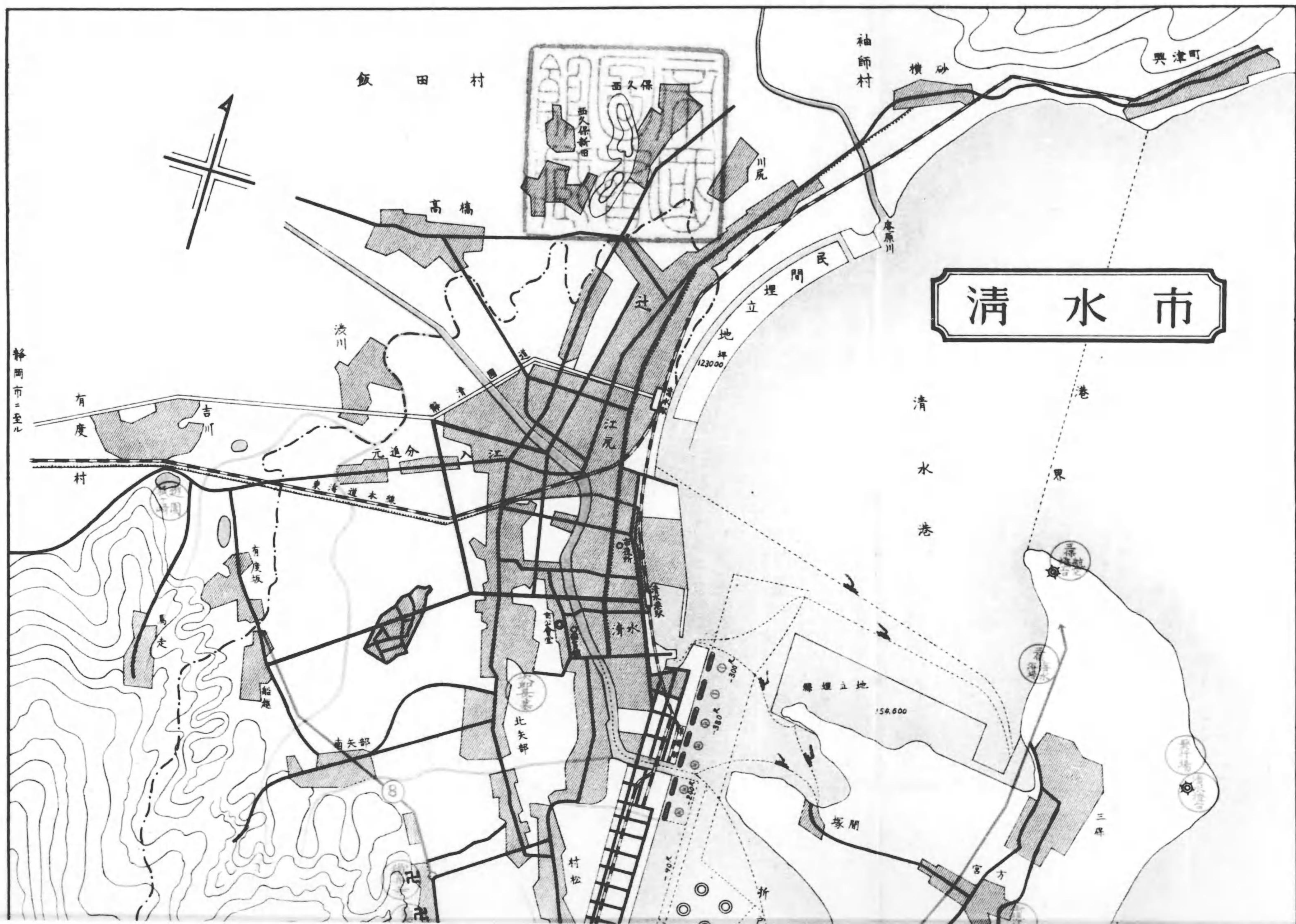
青水市街圖

青水市街圖
青水市街圖
青水市街圖

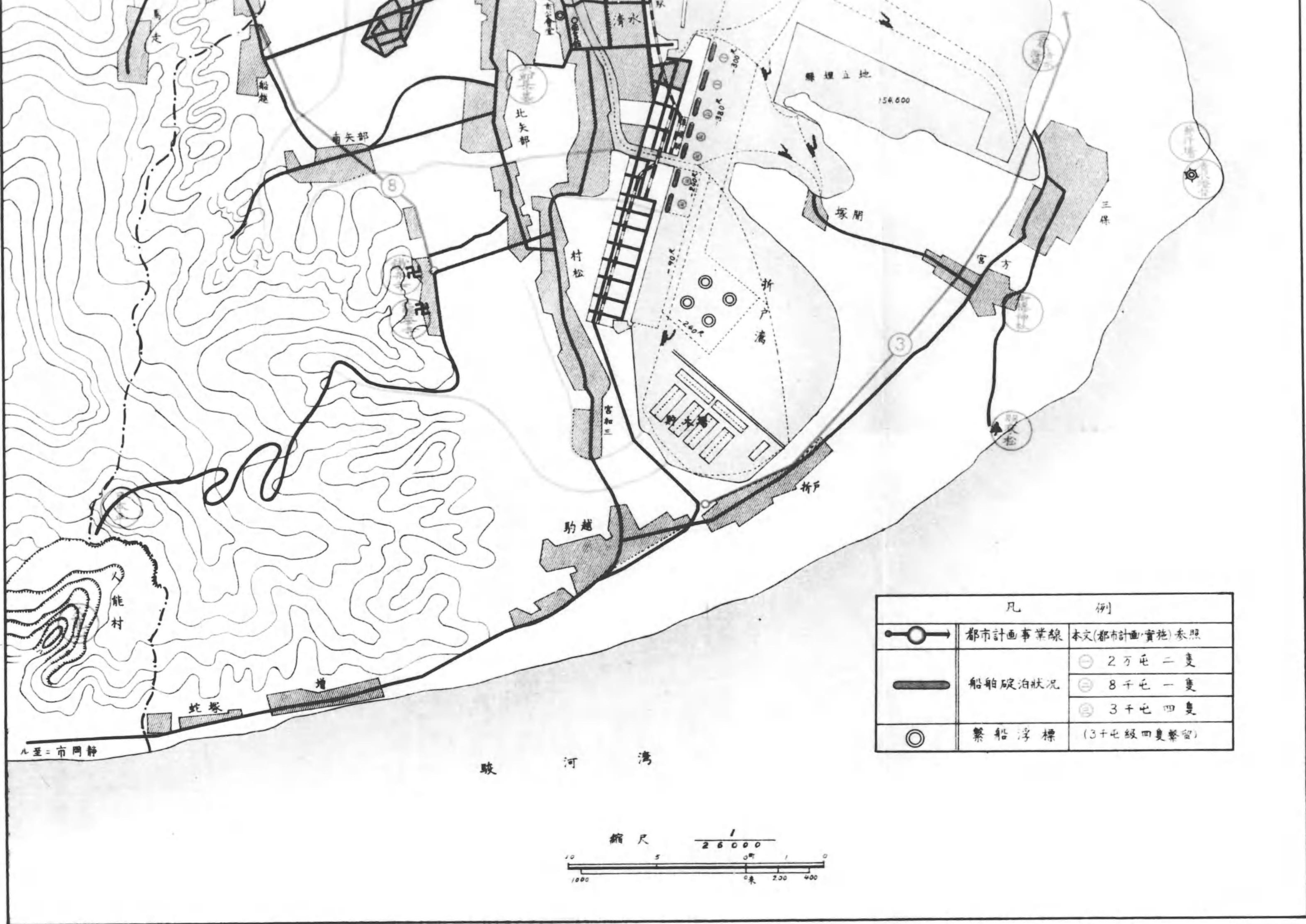
民國二十一年十一月一日
民國二十一年十一月一日



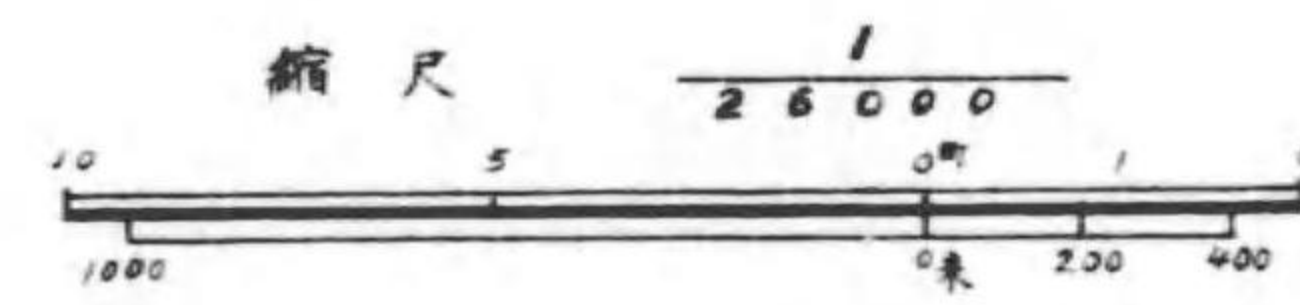
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 20 m



清水市



凡 例	
	都市計画事業線 本文(都市計画実施)参照
	⊖ 2万吨 二隻
	⊕ 8千吨 一隻
	⊗ 3千吨 四隻
	繫船浮標 (3千吨級四隻繫留)



14
32



14. 2口-328



1 4. 2a

328

終